

令和3年度スポーツ庁委託事業
スポーツスペース・ボードレスプロジェクト
(学校体育施設の有効活用推進事業)

報告書

～学校管理から地域管理へ～

令和4年3月

一般社団法人飛騨シューレ

目次

第1章 本事業の概要.....	1
1. 事業の背景・目的.....	1
2. 事業の実施方針	3
第2章 学校体育施設を地域スポーツの場として活用する持続可能な仕組みの検討.....	7
1. 現状分析	7
2. 先行事例研究	14
第3章 学校体育施設を地域スポーツの場として活動する仕組みの検証.....	23
1. 実証事業の実施結果.....	23
2. 海外・国内大学生を巻き込んだプログラムの実施.....	28
3. HPによる広報・予約管理の柔軟化の取組の実施	30
4. 事業推進委員会の運営.....	31
第4章 考察	52
1. 今年度のプログラムを通じて得られた示唆.....	52
2. 次年度以降の方向性.....	53

第1章 本事業の概要

1. 事業の背景・目的

(1) 本事業の背景

地域住民のスポーツ活動の場を確保する観点から、公立学校の体育施設を教育活動に支障のない範囲で地域住民のスポーツ活動の場として提供する方針が学校教育法等において定められている。その中でも「学校体育施設の有効活用に関する手引き」（令和2年3月）において、学校体育施設を地域スポーツの場として有効活用するための具体的な手順が示されている。学校体育施設の活用については、現在でも9割以上の地方公共団体において学校体育施設開放事業が行われてきている一方で、利用者に偏りが見られることなどが課題として認識されている。

今後、スポーツ実施率の飛躍的な向上を図るため、学校体育施設を地域住民の最も身近なスポーツの場として一層気軽に利用できるようにしていくことが求められる。その際には、民間との連携を図りながら効率的に取組を進めるとともに、高齢者や障害者、女性や小さい子どもにも配慮し、利便性の向上を図る必要がある。

また、これまでの部活動は教師による献身的な勤務の下で成り立ってきたが、休日にも出勤を求められる等、長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師にとって多大な精神的・肉体的負担がかかっていること、さらに生徒にとっては望ましい指導を受けられないことが課題として認識されている。

文部科学省では「部活動ガイドライン（平成30年3月）」を策定し部活動の適正化を推進するとともに、学校・教師の働き方改革を喫緊の課題ととらえ、中央教育審議会の答申や給特法改正の国会審議において、「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」ことを提言している。令和5年度には「休日の部活動の段階的な地域移行」を進展させることを明言している。

飛騨市の「スポーツ施設整備計画（平成31年2月）」においても、「各々の施設のあり方、必要性等について総合的に評価しながら、限られた財源の中で適正かつ効率的な整備を進めていく必要がある」こと、また、「スポーツ施設を、(中略)、交流人口の維持増加のための施設として整備を進めていく必要がある」事が述べられている。

これらを踏まえると、総合型地域スポーツクラブ（※）には、学校体育施設の有効活用のため、以下のような観点の取組が求められていると言える。

【総合型地域スポーツクラブに求められている事】

- | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">①学校体育施設の地域住民への開放を一層進めること②部活動を地域単位での取り組みとすること③交流人口の維持・増加を進め、地域の拠点となる施設とすること |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※総合型地域スポーツクラブ・・・人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのこと。（スポーツ庁HPより）

(2) 本事業の目的

(1) の背景を受け、本事業においては以下3点の目標を掲げた。

一点目は、行政との連携の観点である。本実証事業ではその連携の場として「事業推進委員会」を構築し、市、学校、総合型地域スポーツクラブそれぞれに求められる役割の明確化、課題の克服方法について検討を行った。

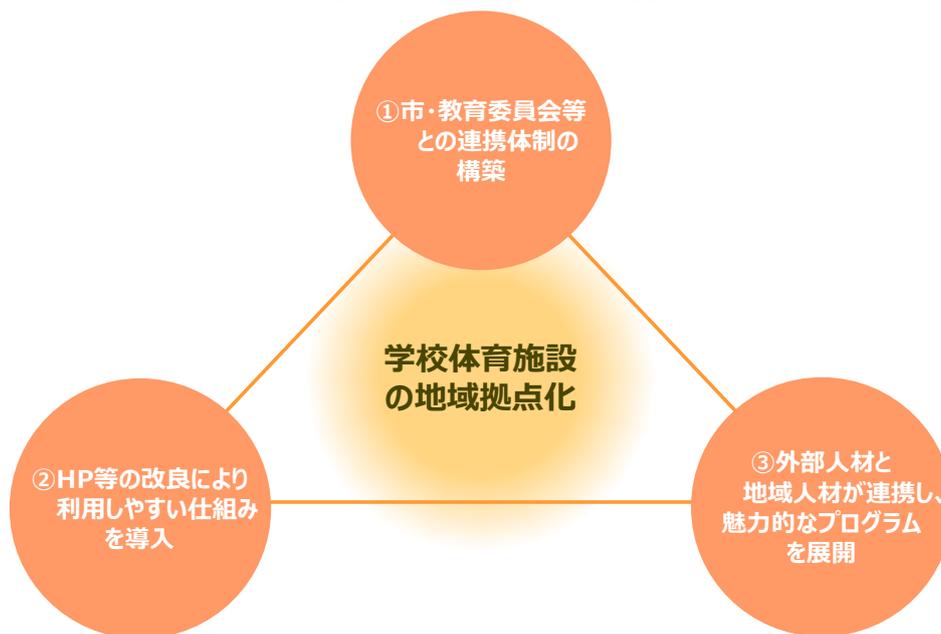
二点目は、デジタル技術を活用した予約管理の方式の検討である。HPを改良し新たな予約管理手法を試験的に導入したうえで、実証事業を通じてその使い勝手・反応を確かめた。今回は2つの学校施設という小規模な範囲での試験的な導入・検討となるが、今後市を中心として整備が検討されている「ICT技術を用いた公共施設の予約管理」にも活かすことができる観点を提供することも視野に入れ事業に取り組んだ。

三点目は、当クラブの慢性的なマンパワー不足解消の一手とすべく、海外・国内の学生インターンを受け入れ、彼らにプログラムのサポートに入ってもらい体制を構築することを目指した。当クラブがサポートを受けるだけではなく、学生にとっても単位取得・文化交流体験等のメリットがある体制を構築することで、サステナブルな連携体制を構築していくことを目指すものである。

図表 1 本事業において実証を目指した項目

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">① 「市、学校、総合型地域スポーツクラブ」に求められる役割分担の検証② 稼働率を向上させ、より使いやすい施設とするための方策(デジタル技術等)の検討③ 「慢性的なマンパワー不足」の解消のため、地域人材と外部人材(大学生インターン等)との連携体制の構築 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

図表 2 短期的な3つの目標

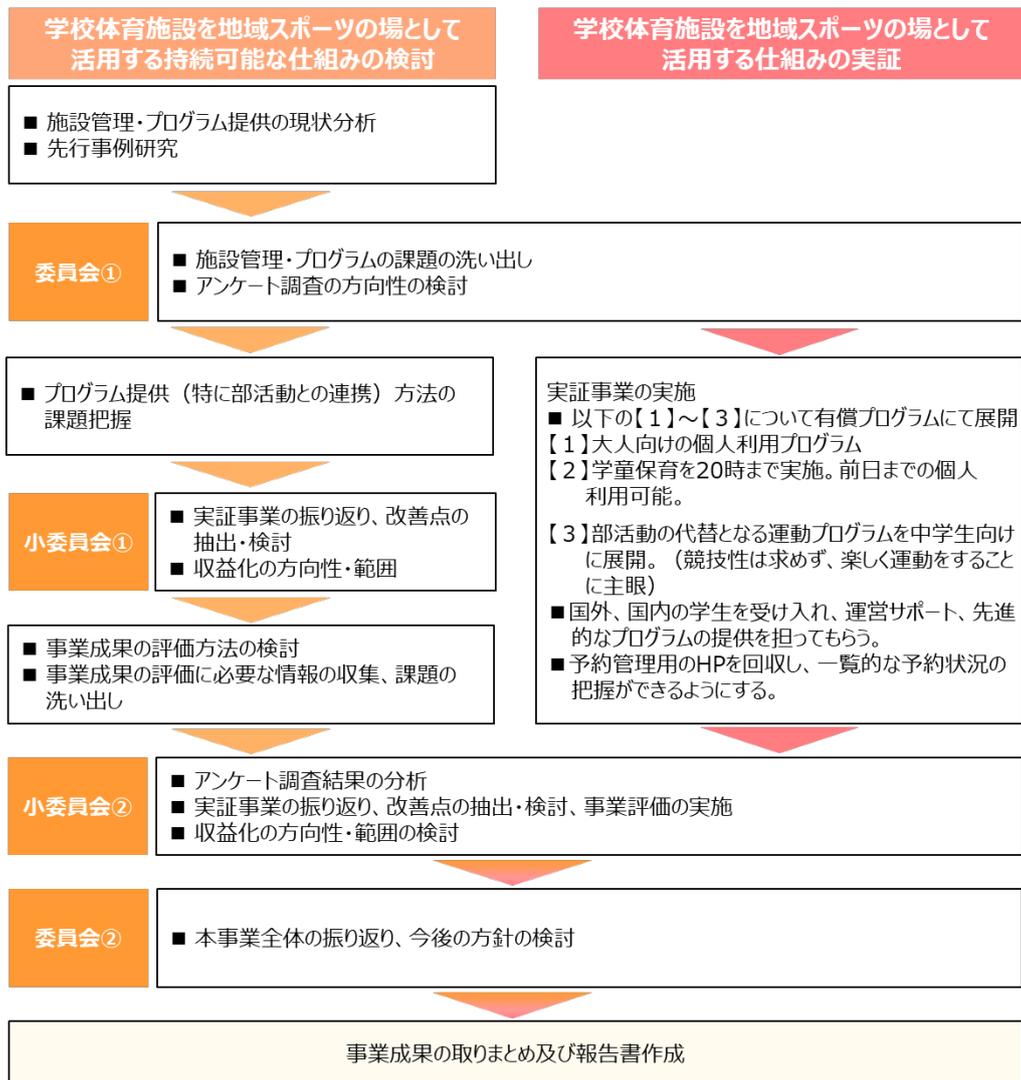


2. 事業の実施方針

(1) 本事業の全体像

本事業全体の流れは以下の通り。「学校体育施設を地域スポーツの場として活用する仕組みの実証」により有償プログラムを導入するとともに、「学校体育施設を地域スポーツの場として活用する持続可能な仕組みの検討」にて、市・教育委員会を交えた課題の整理・今後の検討性の整理等を実施するよう設計した。

図表 3 本事業の全体像

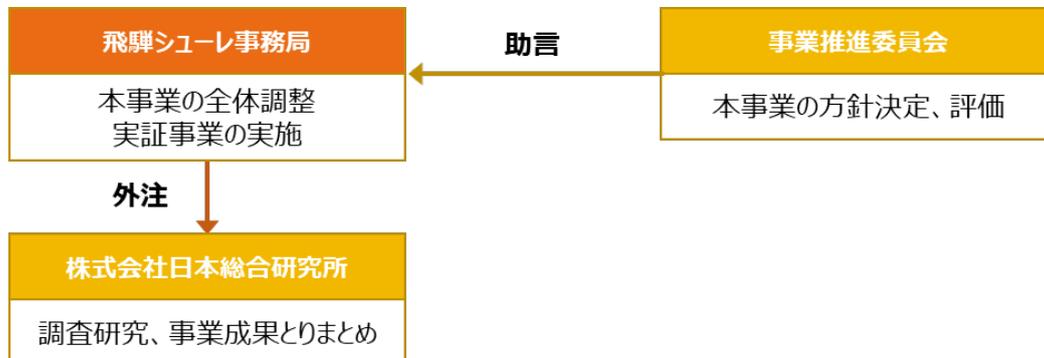


(2) 本事業の実施体制

本事業は、「飛驒シューレ」が主体となって実施した。当クラブが実施する内容の評価・助言等を行う「事業推進委員会」を立ち上げ、助言を得る体制を構築した。事業成果の取りまとめの支援、先進事例の研究・アンケート調査の実施等については株式会社日本総合研究所に外

注している。

図表 4 事業体制図



プロジェクトチームの構成は以下の通りである。

図表 5 プロジェクトチーム構成

■ 総合型地域スポーツクラブ 一般社団法人飛驒シュレ	
主担当者	
クラブマネージャー 山田由香里	津田塾大学で教鞭をとりながら、主として「こどもとスポーツ」「女性とスポーツ」の良好な関係を追及している。研究分野はスポーツ・ジェンダー。海外との比較知見、ネットワークを有する。2005年より飛驒市神岡町にてフィールドワーク実証実験中。
■ 株式会社日本総合研究所 (再委託先)	
プロジェクトリーダー	
株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 コンサルタント 佐々木 京助	貴庁プロジェクトや、地方自治体・中央競技団体等の委託によるスポーツ分野の調査研究業務にメンバーとして従事。スポーツ政策全般やスポーツ施設の整備・利活用について豊富な知見、ネットワークを有する。
プロジェクトメンバー	
株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 部長/シニアマネージャー 前田 直之	スポーツ庁「ストック適正化による持続可能な地域スポーツ環境の確保 (②学校体育施設の有効活用に関する手引き検討調査)」など多数の貴庁プロジェクトにメンバーとして従事。スポーツ政策全般や学校体育施設の整備・利活用について豊富な知見、ネットワークを有する。
プロジェクトメンバー	
株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 コンサルタント 大庭 あかり	スポーツ庁「ストック適正化による持続可能な地域スポーツ環境の確保 (②学校体育施設の有効活用に関する手引き検討調査)」など多数の貴庁プロジェクトにメンバーとして従事。スポーツ政策全般や学校体育施設の整備・利活用について豊富な知見、ネットワークを有する。

2. 事業推進委員会の構成

事業推進委員会の回数・時期・主な検討内容は下記の通り。

事業期間中、事業推進委員会を2回開催するとともに、小委員会を開催した。各回において本事業を進めるにあたっての課題検討、調査研究、実証事業の評価等を行った。

図表 6 事業推進委員会の開催

■委託事業推進委員会	
第1回	6月 「事業推進委員会」 (事業開始時)
第2回	2月 「事業推進委員会」 (最終)
■同 小委員会	
第1回	11月
事業実施状況の報告 (書面により実施)	

次に示す12名により事業推進委員会及び小委員会を組織し、個別のテーマ等について検討を深めた。

推進委員会での議論をより充実させるための工夫として、一点目に、教育委員会及び小・中学校との連携を円滑に行うため、当該機関の担当者を委員に加えている。

図表 7 事業推進委員会 参加者

No.	名前	所属	観点	小委員会 構成メンバー
1	大始良透	飛騨市教育委員会スポーツ振興課長	<ul style="list-style-type: none"> 市のスポーツ振興行政 体育館の指定管理体制 	○
2	中村裕幸	飛騨市教育委員会学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> 市のスポーツ振興行政 部活動 	○
3	安藤喜章	岐阜県庁地域スポーツ課総合型地域スポーツクラブ担当	<ul style="list-style-type: none"> 県のスポーツ振興行政 総合型地域スポーツクラブの動向 	—
4	平澤小学校校長 上口中学校校長	神岡小・中学校長	<ul style="list-style-type: none"> 活動場所の提供 	—
5	フレッド・アリ エル・エルナン デス	海外大学 A	<ul style="list-style-type: none"> 学生の研究協力の受け入れ プログラム構築・検証調査研究の協力 	○
6	谷脇正彦	前・飛騨神岡高校長	<ul style="list-style-type: none"> 現場のボランティア・アシスタント 	—
7	溝口純子	子育てネットワーク部	<ul style="list-style-type: none"> 育児・保育の充実の観点 	—

		会長		
8	山田由香里	飛騨シューレ関係者	・飛騨シューレの運営の状況、 今後の課題についての整理	○
9	調整中	神岡小・中学校 PTA 会長	・オブザーバー	—
10	岩塚藤嗣	前・神岡小学校長	・オブザーバー	○
11	加藤清孝	阪南大学理事 (地元出身)	・オブザーバー	—
12	佐々木京助	日本総合研究所	・オブザーバー	○

(3) 事業実施スケジュール

事業は当初以下の内容で実施を想定していた。

しかし、コロナウイルスの感染拡大を受け、会場である神岡小学校・中学校の使用が停止され、結果、プログラムが開始出来たのは10月からとなった。また、当初予定していた「学生の受け入れ」についても飛騨への学生派遣が困難な状況に置かれたため、次年度以降の検討をする機会や学生同士のディスカッションの場を設ける等の工夫をとり、代替措置を講じている。(詳細は「第三章 1. 実証事業の実施結果」を参照のこと。)

図表 8 事業実施スケジュール（事業開始当初予定）

月	事業推進委員会・小委員会	アンケート調査 (集計含む)	先進事例調査	実証プログラムの実施	学生の受け入れ
4					
5					
6	事業開始時委員会	実施①	★	↑	↑
7					
8					
9	小委員会①		★		
10		集計①			
11					
12		実施②			
1	小委員会②	集計②	★	↓	↓
2	最終委員会、 報告書作成		★		
3					

第2章 学校体育施設を地域スポーツの場として活用する持続可能な仕組みの検討

1. 現状分析

(1) これまでのクラブの活動状況を通じて得られた学校体育施設に関する課題

飛騨シューレは、飛騨市において2005年から地域住民・子どもたちに向けたスポーツ活動機会の提供を実施している団体である。

当クラブのメインフィールドは「桜ヶ丘体育館」になるが、稼働率はある程度高く、当クラブはあくまで利用者の一団体であることから、柔軟な利用日程の確保が困難な状況にある。一方、神岡小学校・中学校については、夜間や休日等一定程度の空きがあるものの、市・教育委員会等との意思疎通をこれまで図ってきていなかったこともあり、稼働率が低いまま放置されてきた経緯がある。令和2年から遡り過去3年間の統計資料によると、神岡小学校の年間利用数(平均)は、874人であり、コロナ禍の影響があることを勘案しても、市立体育館の過去3年間の平均年間利用者数33,412人に比べると圧倒的に利用者数が少ないことが分かる。しかも小学校の利用者に注目すると、特定の1～2団体(スポーツ少年団)によるものであることが分かり、利用者層に偏りがある。また、利用料も免除になっているため収益化ができていないのが現状である。神岡中学校体育館については、過去3年間の平均年間利用者数が3,287人であり、神岡小学校よりは多いものの、固定された曜日に部活動として利用している生徒がほとんどであり、一般利用はほとんど皆無である。

また、「これまでの慣習」「団体間の譲り合い」により地域のスポーツ施設の利用日程が決められてきたことから、他の地域に見られる「利用調整会議」のような会議体がない。そのため、新規に借りる者にとってどのような手続きで利用を申し込めばよいか分かりづらい状況も課題として挙げられた。

さらに、学校体育施設の予約管理は、桜ヶ丘体育館(神岡小学校から車で約10分程度)において紙媒体で管理しており、鍵の授受も桜ヶ丘体育館にて行われることから、利用者は桜ヶ丘体育館に行かないと予約状況の一覧を把握することも鍵を授受することもできない状況である。体育館利用者からはウェブで予約状況の一覧を把握したり、鍵の管理を柔軟にしてほしいという要望が見られた。

図表 9 桜ヶ丘体育館と飛騨市立神岡小学校の位置関係



出所：google map より作成

プログラムのソフト面では、当クラブは多くの対象者に向けて多様なスポーツプログラムを展開したいと考えたが、これまで、マンパワーや財源の制約があり、思うようにプログラムを展開できなかった。また、闇雲にプログラムを展開するのではなく、より効果的にターゲットを見定め、展開すべき年齢層・性別等を把握する必要もあると感じている。

飛騨市立神岡小学校・中学校の保護者を対象に、飛騨シューレの活動内容において、取組の認知度、今後プログラムを改善していくための質問の他、保護者自身の運動に関する項目などについてアンケートを実施した。アンケート内容は（2）以降に記載する。

（2）保護者への認知度調査の実施

プログラム開始前の広報もかねて、保護者を対象にアンケート調査を実施した。概要・設問は以下の通り。

図表 10 認知度調査の概要と設問

項目	内容
対象	飛騨市立神岡小学校・中学校の保護者（計 200 名程度）
実施期間	2021 年 7 月 19 日～8 月末
回答数	計 32 名
趣旨	プログラム開始前に、飛騨シューレの取組の認知度・ニーズを把握するとともに、参加にあたっての課題を把握し、プログラムの設計に活かす。

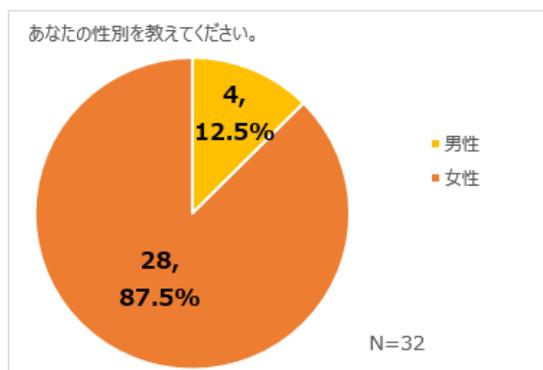
設問	内容
0	あなたの性別/年齢を教えてください。

1	飛騨シューレの活動内容を知っていますか。
2	飛騨シューレの活動にお子さんを参加させたいと思いますか。
3	設問2で「はい」と答えた方について、こどもを参加させたいプログラムを一つ選んでください。
4	設問2で「いいえ」と答えた方について、その理由を以下の中から選択してください。(複数選択可能)
5	保護者自身も運動プログラムに参加したいと考えますか
6	設問5「はい」と答えた方について、こどもと一緒に参加する意向があるか教えてください。
7	設問5において「いいえ」と答えた方について、その理由を教えてください。(複数選択可能)
8	最後に、飛騨シューレの運動プログラムに参加すると仮定した場合、望ましいプログラムを一つ選んでください。

① 結果

(ア) 性別

回答者はほとんどが女性で、男性は1割程度となっている。

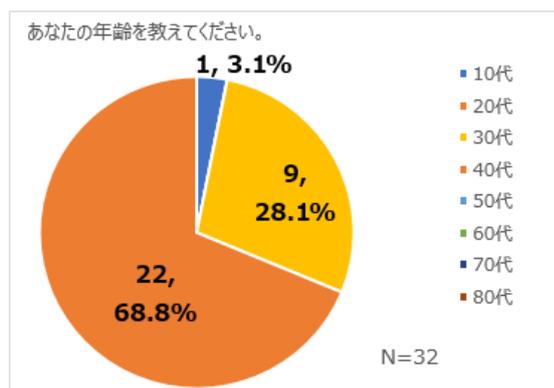


全体(n=32)

	N	%
男性	4	12.5%
女性	28	87.5%
合計	32	100.0%

(イ) 年齢

40歳代が7割、30歳代が3割程度となっている。

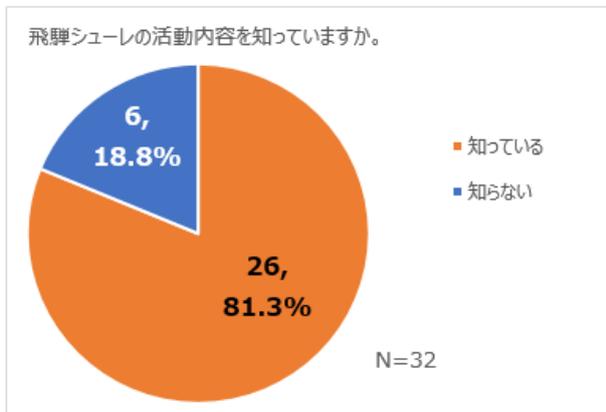


全体(n=32)

	N	%
10代	1	3.1%
20代	0	0.0%
30代	9	28.1%
40代	22	68.8%
50代	0	0.0%
60代	0	0.0%
70代	0	0.0%
80代	0	0.0%
合計	32	100.0%

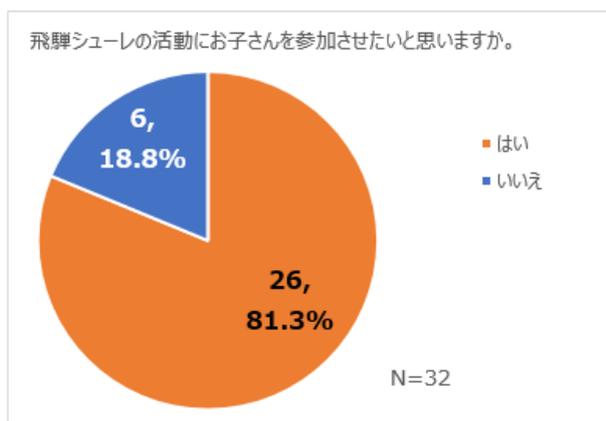
(ウ) 飛騨シューレの活動について

飛騨シューレの活動について8割程度「知っている」と回答があり、認知度が高い。
また、8割の方が飛騨シューレの活動に子どもを参加させたいという回答があった。



全体 (n=32)

	N	%
知っている	26	81.3%
知らない	6	18.8%
合計	32	100.0%



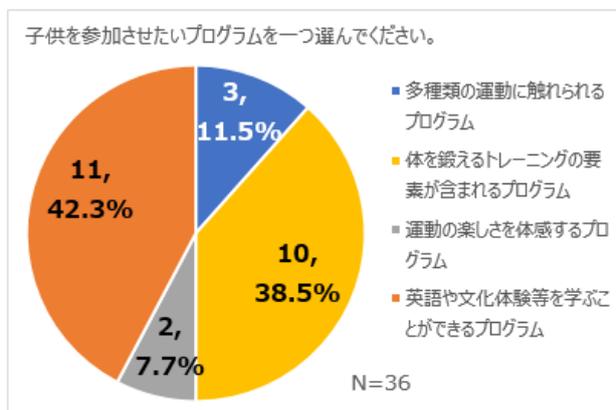
全体 (n=32)

	N	%
はい	26	81.3%
いいえ	6	18.8%
合計	32	100.0%

(エ) 参加プログラム

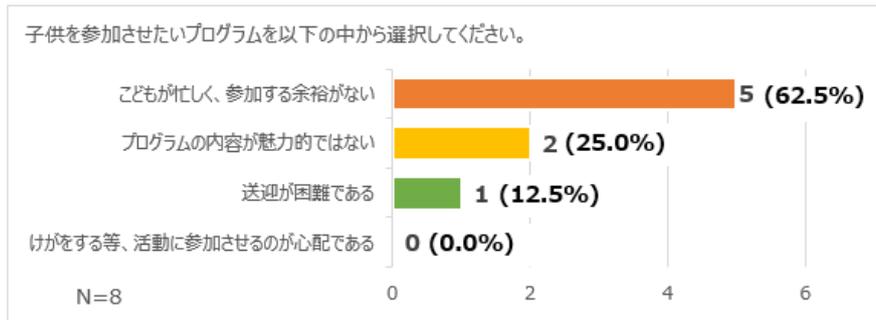
飛騨シューレの活動で子どもに参加させたいプログラムとしては、「運動の楽しさを体感するプログラム」や「多種類の運動に触れられるプログラム」が多かった。

飛騨シューレの活動に子どもを参加させたくない理由としては、「子どもが忙しく、参加する余裕がない」という回答が多く、その他、「プログラムの内容が魅力的ではない」、「送迎が困難である」という回答があった。



全体 (n=26)

	N	%
多種類の運動に触れられるプログラム	3	11.5%
体を鍛えるトレーニングの要素が含まれるプログラム	10	38.5%
運動の楽しさを体感するプログラム	2	7.7%
英語や文化体験等を学ぶことができるプログラム	11	42.3%
合計	26	100.0%



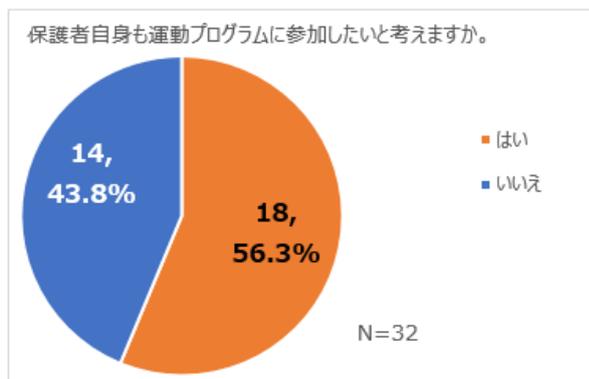
全体 (n=8)

	N	%
子どもが忙しく、参加する余裕がない	5	62.5%
プログラムの内容が魅力的ではない	2	25.0%
送迎が困難である	1	12.5%
けがをする等、活動に参加させるのが心配である	0	0.0%
合計	8	100.0%

(オ) 保護者自身のプログラム参加について

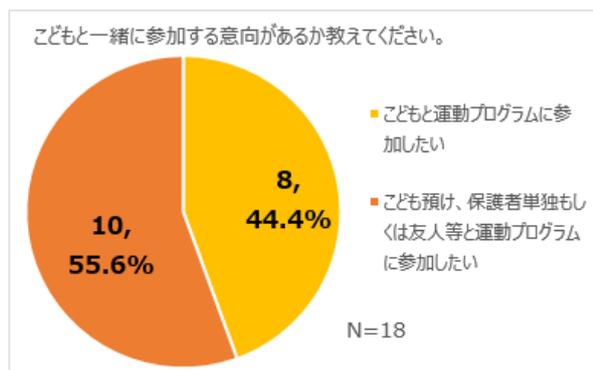
保護者自身の運動プログラム参加の意向について、半数以上が参加したいと回答があった。

また、子どもと一緒に参加する意向についても、半数以上が参加したいと回答があった。保護者自身の運動プログラム参加の意向で「いいえ」と答えた理由については、「仕事や家事が忙しく運動する時間がない」、「別の機会に運動を実施している」などの回答が多い。



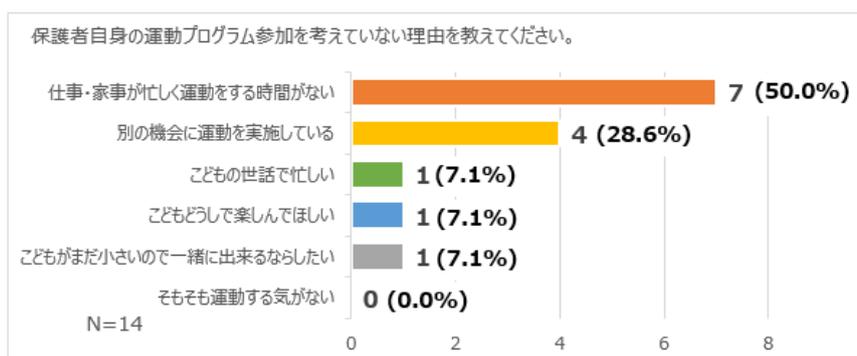
全体 (n=32)

	N	%
はい	18	56.3%
いいえ	14	43.8%
合計	32	100.0%



全体 (n=18)

	N	%
子どもと運動プログラムに参加したい	8	44.4%
子ども預け、保護者単独もしくは友人等と運動プログラムに参加したい	10	55.6%
合計	18	100.0%

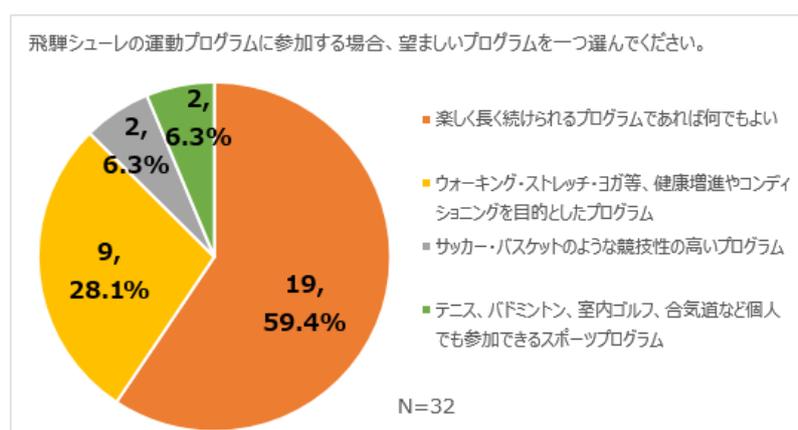


全体 (n=14)

	N	%
仕事・家事が忙しく運動をする時間がない	7	50.0%
別の機会に運動を実施している	4	28.6%
こどもの世話で忙しい	1	7.1%
こどもどうして楽しんでもほしい	1	7.1%
こどもがまだ小さいので一緒に出来るならほしい	1	7.1%
そもそも運動する気がない	0	0.0%
合計	14	100.0%

(カ) 飛騨シューレで参加したい運動プログラム

飛騨シューレの運動プログラムで望ましいプログラムについては、「楽しく長く続けられるプログラムであれば何でもよい」という回答が多く、続いて「ウォーキング・ストレッチ・ヨガ等、健康増進やコンディショニングを目的としたプログラム」が多い。



全体 (n=32)

	N	%
楽しく長く続けられるプログラムであれば何でもよい	19	59.4%
ウォーキング・ストレッチ・ヨガ等、健康増進やコンディシ	9	28.1%

ヨニングを目的としたプログラム		
サッカー・バスケットのような競技性の高いプログラム	2	6.3%
テニス、バドミントン、室内ゴルフ、合気道など個人でも参加できるスポーツプログラム	2	6.3%
合計	32	100.0%

(3) 事業開始前に得られた課題

これまでのクラブの活動及び事業開始前にアンケート調査で得られた課題を整理すると以下の通りである。

図表 11 学校体育施設の利用に関する課題点

<p>(これまでの活動から読み取れる課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会体育施設と比較して学校体育施設の利用が低調であり、稼働率の向上が必要。 ・利用者層が固定化されており、個人利用も進んでいない。 ・管理者である市・教育委員会との連携がこれまでとれておらず、空いている時間帯があっても有効に活用することができなかった。 ・予約管理の方法が周知されておらず、限られた者しか使えない。また、「利用調整会議」にあたる調整手段がなく、「予約管理の見える化」が必要である。 ・取り組みたいプログラムは多々あるものの、主にマンパワー不足により取り組むことが難しい。また、プログラムを展開するターゲット層の把握ができていない。 <p>(アンケートから読み取れる課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者はこどもに、「運動の楽しさを体感するプログラム」や「多種類の運動に触れられるプログラム」に参加してほしいという意向があるものの、「こどもが忙しく参加させることが難しい」等の理由から、プログラムに参加させられない（参加させたくない）と答えている傾向が読み取れる。 ・また、保護者とこどもと一緒に運動できるプログラム参加意向を確認すると、参加意向は55.6%とある程度高い一方、「家事」等の理由から参加ができない（したくない）と答える者がいることもわかった。

上記より、以下の点について先行事例研究を行うことが重要と考えた。

図表 12 事例研究において研究すべき観点

<ul style="list-style-type: none"> ・学校体育施設の稼働率向上策 ・利用者の多様化 ・予約管理・提供時間の柔軟化、予約管理の見える化 ・マンパワー不足の解消 ・忙しい保護者のサポート

2. 先行事例研究

(1) 先行事例調査の実施概要

先行事例調査の対象先は次のとおり。今般の新型コロナウイルスの拡大の影響を踏まえ、実地でのヒアリング調査は最小限とし、実地ヒアリングが難しい団体については HP 等公表情報をベースにした文献調査を行った。「図表 12 事例研究において研究すべき観点」において列挙した観点について分析し、考察を行っている。

図表 13 先行事例調査対象

調査方法	事例番号	調査対象団体	所在地
文献調査	事例 1	朝日丘スポーツクラブ	愛知県豊田市
文献調査	事例 2	清新 JAC	東京都江戸川区
文献調査	事例 3	アステム湘南スポーツソサエティ	神奈川県茅ヶ崎市
文献調査	事例 4	Yu-Gaku 加茂スポーツクラブ	島根県雲南市
文献調査	事例 5	スポーツコミュニティ久喜	埼玉県久喜市
文献調査	事例 6	総合型地域スポーツクラブ 愛ランドあさひ	新潟県村上市
文献調査	事例 7	はむら総合型スポーツクラブはむすぼ	東京都羽村市
ヒアリング調査	事例 1	高津総合型スポーツクラブ SELF (令和 3 年 9 月 22 日に WEB ヒアリングを実施)	神奈川県川崎市
ヒアリング調査	事例 2	NPO 法人 希楽々 (きらら) (令和 3 年 9 月 21 日に WEB ヒアリングを実施)	新潟県村上市
ヒアリング調査	事例 3	スポーツデータバンク沖縄 (令和 3 年 9 月 21 日に WEB ヒアリングを実施)	沖縄県うるま市

(2) 先行事例調査の実施結果

※①文献調査と②ヒアリング調査のそれぞれについて、結果を取りまとめて記載する。

①文献調査

【事例 1】朝日丘スポーツクラブ

図表 14 取組の概要とポイント (朝日丘スポーツクラブ)

取組概要	取組体制	<p>【設立年度】2003 年</p> <p>【スタッフ数】理事 15 名、監事 2 名、事務局長、事務員 3 名</p> <p>【会員数】731 名 (2018 年 9 月時点)</p> <p>【運営会費】月会費 2,000 円～7,000 円</p> <p>【利用対象】小学生からシニア世代</p>
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田市から「放課後児童健全育成事業」を受託し、朝日丘地区の 3 小学校の放課後児童クラブの管理運営業務を実施。 ・放課後児童クラブの遊びの時間に、スポーツ指導者がコーディネーショントレーニングを取り入れた運動遊びのプログラムを提供。

【事例2】 清新 JAC

図表 15 取組の概要とポイント（清新 JAC）

取組概要	取組体制	<p>【設立年度】 1999 年</p> <p>【スタッフ数】 代表、コーチ約 10 名</p> <p>【会員数】 243 名（2020 年 12 月時点）</p> <p>【運営会費】 月会費 4,400 円/週 1 回、6,600 円/週 2 回 クラブ（江戸川のみ）6,600 円/週 2～4 回</p> <p>【利用対象】 幼児から中学生まで</p>
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を対象としたクラブでは、短距離跳躍ブロック、中長距離ブロック、ハードルブロックに分かれ、それぞれ専門のコーチが指導 ・全国大会出場レベルを目指し、積極的に大会に出場。自身の通っている学校に陸上部がない子も、この清新 JAC のクラブメンバーとして出場する機会を得ている。入賞者も多数。 ・大迫傑や山野友也といった全国レベルの OB も多数輩出。

【事例3】 アステム湘南スポーツソサエティ

図表 16 取組の概要とポイント（アステム湘南スポーツソサエティ）

取組概要	取組体制	<p>【設立年度】 2015 年</p> <p>【スタッフ数】 代表理事、理事 3 名、監事 1 名、正会員スタッフ 12 名、契約スタッフ 8 名</p> <p>【会員数】 100 名（2021 年 8 月時点）</p> <p>【運営会費】 月会費 4,500 円（ビギナー 800 円/月）</p> <p>【利用対象】 幼児からシニア世代まで</p>
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・4つのアカデミー開催（バスケットボール、チア、エアロビック、キッズスポーツ）のほか、地域スポーツ少年団や学校部活動への外部コーチ派遣、公共施設や企業・団体への講師派遣も行う。 ・コーチは「スポーツや運動指導を専門とするプロコーチ」、「指導者経験のある現役アスリート」、「教員免許保持の現役コーチ・アスリート」が務める。

【事例4】 Yu-Gaku 加茂スポーツクラブ

図表 17 取組の概要とポイント（Yu-Gaku 加茂スポーツクラブ）

取組概要	取組体制	<p>【設立年度】2014年</p> <p>【スタッフ数】代表、監査役2名、職員16名</p> <p>【会員数】210名（2021年1月時点）</p> <p>【運営会費】プール月会費 一般4,400円、小・中学生1,750円、高校性・65歳以上2,630円、他施設は時間単位</p> <p>【利用対象】幼児からシニア世代まで</p>
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実業団チームの休部により地域のクラブチームとして再出発したソフトボールチームと連携・協働して、中学校の運動部活動やスポーツ少年団を対象とした定期的な巡回指導を実施。 ・巡回指導をきっかけとして地域住民がクラブチームを支援する機運が高まり、クラブチームの練習場所として中学校のグラウンドが活用できるようになるなど、地域スポーツとトップスポーツの好循環が創出。

【事例5】スポーツコミュニティ久喜

図表 18 取組の概要とポイント（スポーツコミュニティ久喜）

取組概要	取組体制	<p>【設立年度】2005年</p> <p>【スタッフ数】不明</p> <p>【会員数】100名以上（時点）</p> <p>【運営会費】月会費 1,500～4,000円</p> <p>【利用対象】幼児からシニア世代まで</p>
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・当コミュニティが運営するジュニア陸上クラブが、YouTubeチャンネルを開設。トレーニング動画のほか、栄養や睡眠について紹介する動画も公開。

【事例6】総合型地域スポーツクラブ 愛ランドあさひ

図表 19 取組の概要とポイント（総合型地域スポーツクラブ 愛ランドあさひ）

取組概要	取組体制	<p>【設立年度】2010年</p> <p>【スタッフ数】会長、副会長、理事6名、監事2名、他34名</p> <p>【会員数】432名（2019年3月時点）</p> <p>【運営会費】月会費 ジュニアダンスのみ 3,000円</p> <p>※他教室：年会費、都度払い</p> <p>【利用対象】幼児からお年寄りまで</p>
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ交流の楽しさを体験しスポーツに興味を持ってもらうため、eスポーツ大会を定期開催。 ・年齢制限なしで市民の誰もが参加可能。

【事例7】はむら総合型スポーツクラブはむすぼ

図表 20 取組の概要とポイント（はむら総合型スポーツクラブはむすぼ）

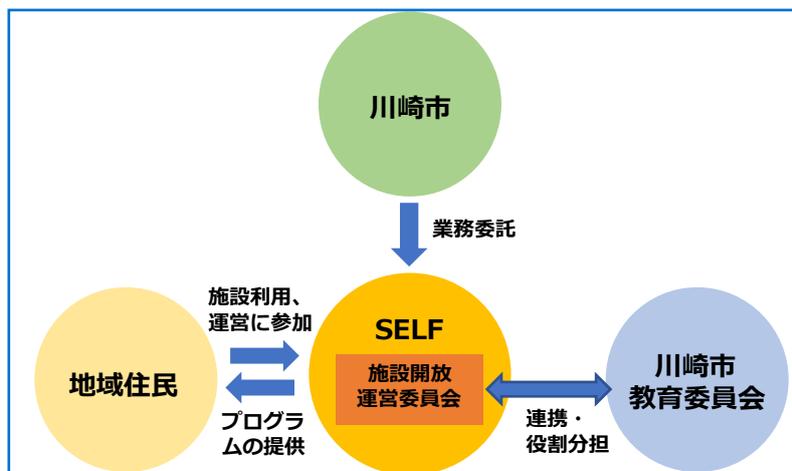
取組概要	取組体制	<p>【設立年度】2008年</p> <p>【スタッフ数】理事長、副理事長2名、理事4名、監事1名、その他ボランティア</p> <p>【会員数】530名（R2年時点）</p> <p>【運営会費】</p> <p>年会費：個人会員3,000円（前年度から継続の場合2,500円） ファミリー会員6,000円（前年度から継続の場合5,000円） 受講料：1回500円程度、または1ヶ月200円程度～7,000円程度</p> <p>【利用対象】幼児～シニア世代</p>
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、レクリエーション活動を通して、誰もが「いつでも」「どこでも」「いつまでも」楽しく身体を動かせる場を提供し、健康で豊かな「人づくり」「仲間づくり」「まちづくり」をめざす。 ・テニスやバドミントン等のほか、フラダンスやフィールドゴルフ、夜のスイミング教室、吹き矢など20種類以上の幅広いプログラムを提供。 ・スポーツセンターにて開催するプログラムの他、自宅等から参加できるzoomのオンラインプログラムも実施。シニア世代を対象としたオンラインプログラムにも力を入れている。
活動・運営上の工夫	プログラム面	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度補助金事業（シニアスポーツ振興事業）として、60歳以上の市民を対象としたZoomでのオンライン教室「おうちで筋トレ&ストレッチ」を、2020年9～12月に週1～2回のペースで計20回開催。 ・説明会後は、実際のオンラインレッスン日までにクラブから参加者1人1人に電話をし、しっかりとコミュニケーションを取りつつアクセス練習も実施。
	体制面	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会開催にあたり、様々なシミュレーションを行って対応チャートを作成。また、配布資料は市販のマニュアル等も参考にしながら作成。 ・オンラインサービスの利用が初めての人でもプログラムに参加できるよう、初回はスポーツセンターに集合し、端末の接続方法から説明。
取組効果		<ul style="list-style-type: none"> ・説明会時には参加者の多くがスマホやPCについて「まだ使えないが学んで操作する」という状況で不安の声も上がっていたが、最終的には皆当たり前のように使いこなせるようになった。 ・当プログラムへの参加をきっかけに、外部のセミナーやオンラインでの集いに参加するなど、オンラインツールを幅広く活用して生活の質を高める人も増えた。

今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・当日プログラムに参加できなかった場合でも後日実践できるよう、録画データを共有するなどのフォロー措置も検討中。 ・現在は当プログラムを定期開催しており、オンラインでは他にもストレッチとリズム体操のプログラムを開催。今後もさらに種類を増やしながら、会員のニーズに合わせて有効活用していきたいと考えている。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

②ヒアリング調査

【事例1】高津総合型スポーツクラブ SELF

図表 21 取組の概要とポイント（高津総合型スポーツクラブ SELF）

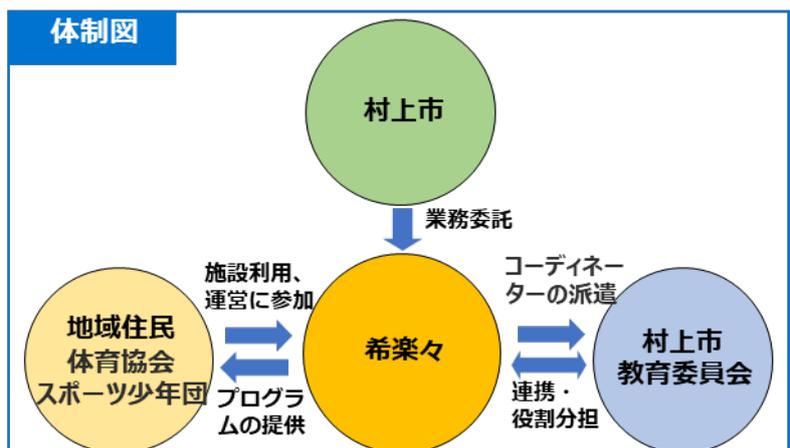


取組概要	取組体制	<p>【設立年度】 2006 年</p> <p>【スタッフ数】 理事 9 名、その他ボランティア等により構成</p> <p>【会員数】 約 1300 名（H28 年時点）</p> <p>【運営会費】</p> <p>一般会員 1,200 円/月、18 歳以下、シニア・障がい者 600 円/月</p> <p>【利用対象】 原則として、学区内の未就学児からシニア世代。</p>
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・40 種類以上の運動プログラムを定期的で開催 (Sports) するとともに、イベントを自主企画し (Enjoy)、地域のつながりを大切に育み (Life)、企業・他団体との協働を通して社会課題の解決を図る (Friendly) ことを目指す。 ・学校施設を活用した運動教室の開催及び予約調整業務、学校の用務員及び夜間警備の委託業務、運動教室の開催、施設管理業務を中心として活動している。
活動・運	プログラム面	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が下校した夜間（18 時～21 時）や休日の学校施設を利用し活動する都市型スポーツクラブとして、地域住民のスポーツ・文化活動、健康、コミュニケーションの促進を図るプログラムを提供。

体制面	<ul style="list-style-type: none"> 既存の学校施設の利用、会員がボランティアで講師をするなど、地域の住民が自主的に運営しており、経費をかけずに安価な利用料で運営。
財政面	<ul style="list-style-type: none"> 体育館利用は受益者負担の観点から光熱費等として利用料金を徴収している。夜間グラウンドを使用する場合は照明用のコインを購入する。
施設管理面	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市より市立学校4校の学校施設有効活用事業を受託。学校開放の受付・調整はSELFの組織する「施設開放運営委員会」で行い、利用団体の登録業務や開放時の管理運営責任は川崎市教育委員会が担当している。 校務員業務及び夜間警備業務も併せて受託し、学校とクラブの信頼関係の構築に寄与。
取組効果	<ul style="list-style-type: none"> 地域団体が学校開放運営と校務員業務を実施することで、安全確保、施設・利用者管理により目が行き届くようになった。 学校施設を使ったスポーツ活動を通じて新たな交友関係が広がり、学校に行きづらかった子どもが学校に居場所を持てるようになった。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> 団体利用だと利用者が固定化されており、また個人また利用できないかと問合せも多いため、曜日ごとに実施する種目を決める等して個人開放できるようにしたいと考えている。 毎日プログラムを実施していくうえで、管理人を置ける管理経費程度は賄えるような受益者負担が必要となってくる。

【事例2】NPO法人 希楽々（きらら）

図表 22 取組の概要とポイント（NPO法人 希楽々（きらら））

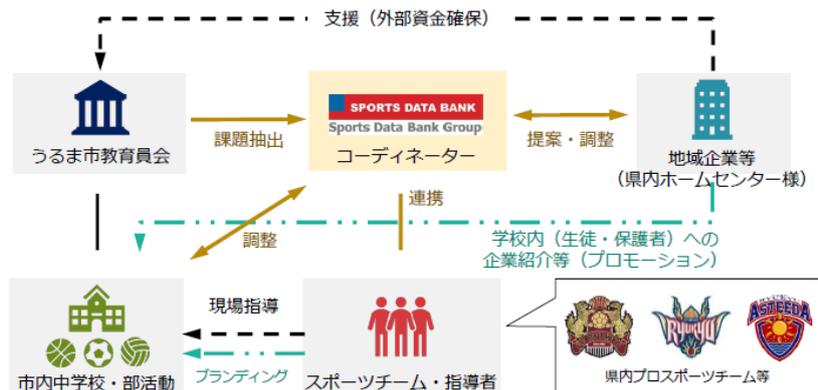


取組概要	<p>【設立年度】2003年</p> <p>【スタッフ数】理事長、職員15名、パート20名</p> <p>【会員数】943名（R3年12月時点）</p> <p>【運営会費】R3より年会費は無料</p> <p>【利用対象】未就園児からシニア世代</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつでも・だれでも・いつまでも」気軽に楽しめるスポーツ活動及び文化活動の振興、地域住民の健全な心身の育成、他団体との協働を図り、だれもが参画できる健康で楽しく元気なまちづくりに寄与することを目的とし、多様な事業を展開している。 ・こどもの放課後の居場所づくり「アフタースクール」、買い物弱者支援「ささえ隊」、商業施設活用プログラム「健康ショッピング」「ちょいトレサロン」「お出かケア」、高齢者の社会参加事業、障がい者スポーツによる障がい者と健常者の共生等に取り組んでいる。
活動・運営上の工夫	プログラム面	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24～28 年度の取組（地域の複数の中学校が合同で、それぞれの中学校にはない種目（女子バスケ・男女サッカー）を対象とした合同部活動（新しいカタチの部活動）を実施）が前身となり、現在は「融合型部活動」を実践している。
	体制面	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のマンパワーの活用や高齢者がスタッフとして活動するなど、高齢者の通年雇用などから多角経営が可能となっている。 ・会場となる神林総合体育館までは、クラブが所有するバスで生徒を送迎しており、学校内でバスの乗車ができるなど、学校との信頼関係を築いている。
	施設管理面	<ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツ指導者や企業チーム・プロチームの選手等が小中学校、総合型クラブ、スポーツ少年団に指導している。
取組効果		<ul style="list-style-type: none"> ・総合型クラブが事業の受け皿となり、スポーツの優れた経験と技術を持つ人材を発掘し、地域のスポーツ団体・学校等と連携できた。
今後の展開		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや福祉分野だけではなく、観光や生涯学習などの様々な分野も提案し、多くの人と協働しながら、地域になくてはならない存在になりたいと考えている。 ・平成 25 年に総合型スポーツクラブの全国会議を開催するなど、「希楽々」が関わるきっかけを展開していきたい。

【事例 3】スポーツデータバンク沖縄

図表 23 取組の概要とポイント（スポーツデータバンク沖縄）



出所：スポーツデータバンク沖縄様 資料 P20 より

取組概要	取組体制	<p>【設立年度】2016年</p> <p>【スタッフ数】全国1,500名以上</p> <p>【会員数】支援学校45校、支援部活動数101部活</p> <p>【運営会費】不明</p> <p>【利用対象】中学校、高等学校。※将来的には一般利用者も対象。</p>
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校部活動への事業支援の他、市内生徒のスポーツ実施率の向上、運動意識の改革のため、学校部活動への外部支援とあわせて、スポーツ啓蒙活動を実施している。 ・市内実証フィールドとしてモデル校2校を選定し、期間限定の取り組みとして学校夜間開放事業における学校施設の活用に対し、ICTツールを活用した地域開放の手法を検証している。
活動・運営上の工夫	体制面	<ul style="list-style-type: none"> ・うるま市教育委員会生涯学習スポーツ振興課が主管・窓口となり、学校夜間開放事業における学校との開放日調整、利用者の申請対応、利用者への鍵の管理（委託）等を行っている。学校や管理委託先との調整は書面等でのやりとりで行っており、利用者による利用申請は開庁時間内にて窓口で行われている。 ・学校の活動時間と開放時間を分けて実施している（夜間開放事業）。
	財政面	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会や学校（保護者会）の予算を活用し学校の部活動への指導者のマッチング・運営サポート等を行っている。
	施設管理面	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵の開閉、活動時の管理、戸締り、消灯などはシルバー人材センターに委託し管理されている。 ・各学校に1～2名程度担当者が配置されている。
取組効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民への活用を周知しやすく、かつ将来的に統合することができる可能性がある。 	
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・日中や休日など学校での活用がない時間帯などに地域住民のスポーツ環境として施設の有効活用。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ OMM 社が開発している SPM クラウドシステムの予約システムと併せて、イベント予約やチェックイン管理、鍵の開閉や利用団体のランク付けなど ICT を活用した管理の実施。 ・ 参加者の顔認証や体温チェックを同時に確認し、情報を連動させたい。
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 考察

学校体育施設の稼働率の向上の観点では、学校時間外の夜間や休日の利活用を推進する事例が多くみられた。ただし、特に夜間に事業を実施する場合には、送り迎えや安全性の観点等、管理上留意する点が追加されることに留意が必要である。

利用者の多様化の観点では、クラブの活動がきっかけとなって、動画配信や外部セミナーへの参加などオンラインツールを幅広く活用することにつながり、スポーツに限らず生活の質全体を高める場合がある事が参考になる。スポーツにとどまらず、生活全体に影響がある事は大きな示唆がある事と感じた。

予約管理・提供時間の柔軟化の観点では、市や地域団体との連携が不可欠であることを再確認できた。また、ICT 技術を活用した予約管理を実践している例もあり、当クラブの参考にできる部分であった。

マンパワー不足の解消の観点では、自治体の予算や学校予算を活用して部活動の指導者の配置や運営サポート等を行っている例が見られた。自治体からの指定管理費等総合型クラブにとって重要な財源であり、その多様化は検討に値する収入源と感じた。地域住民がボランティア講師として活動している例もあったが、この点は参考になる一方、「やりがい搾取」のような形で無給で雇用することなく、一定の対価を以て労働力を提供するような「受益者負担の観点」が必要であることに注意が必要である。

忙しい保護者のサポートの観点では、会場までの行き帰りはクラブがバス送迎することで保護者の負担を軽減している例が見られた。「保育」の観点や「補食」の観点も保護者のサポートの観点では重要であり、単にスポーツを提供するだけではなく、生活をトータルでサポートする観点が重要であることが確認できた。

図表 24 学校体育施設の稼働率向上策

<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が下校した夜間（18 時～21 時）や休日の学校施設を利用し活動する（高津総合型スポーツクラブ SELF） ・ 日中や休日など学校での活用がない時間帯などに地域住民のスポーツ環境として施設の有効活用。（スポーツデータバンク沖縄）

図表 25 利用者の多様化

<ul style="list-style-type: none"> ・ 当コミュニティが運営するジュニア陸上クラブが、YouTube チャンネルを開設。トレーニング動画のほか、栄養や睡眠について紹介する動画も公開。（スポーツコミュニティ久喜）

- ・ プログラムへの参加をきっかけに、外部のセミナーやオンラインでの集いに参加するなど、オンラインツールを幅広く活用して生活の質を高める人も増えた。（はむら総合型スポーツクラブはむすぼ）

図表 26 予約管理・提供時間の柔軟化、予約管理の見える化

- ・ 地域団体が学校開放運営と校務員業務を実施することで、安全確保、施設・利用者管理により目が行き届くようになった。（高津総合型スポーツクラブ SELF）
- ・ うるま市教育委員会生涯学習スポーツ振興課が主管・窓口となり、学校夜間開放事業における学校との開放日調整、利用者の申請対応、利用者の鍵の管理（委託）等を行っている。（スポーツデータバンク沖縄）

図表 27 マンパワー不足の解消

- ・ 教育委員会や学校（保護者会）の予算を活用し学校の部活動への指導者のマッチング・運営サポート等を行っている。（スポーツデータバンク沖縄）
- ・ 既存の学校施設の利用、会員がボランティアで講師をするなど、地域の住民が自主的に運営しており、経費をかけずに安価な利用料で運営。（高津総合型スポーツクラブ SELF）

図表 28 忙しい保護者のサポート

- ・ 会場となる神林総合体育館までは、クラブが所有するバスで生徒を送迎している。（総合型地域スポーツクラブ 希楽々（きらら））

第3章 学校体育施設を地域スポーツの場として活動する仕組みの検証

1. 実証事業の実施結果

（1）プログラムの全体像

企画当初、3つのプログラムの実施を想定していた。その内容は以下の通り。後述するが、施設の工事及び新型コロナウイルスの拡大を受け、一部実施ができないプログラムもあった。ただ、その場合でもヒアリング等を通じて課題を整理し、次年度以降の実施につなげることとした。

図表 29 3つのプログラム

カテゴリー	対象	目的・概要	提供プログラム	場所
PHCP (Personal Health Care Program)	<ul style="list-style-type: none"> 一般成人 高齢者 	<ul style="list-style-type: none"> 「ひとりではできない」を「いっしょにしましょう！」に意識改革。インストラクターが待機し、利用者のニーズにマンツーマンで応える。 	<ul style="list-style-type: none"> エクササイズ・ウォーキングⅠ ライフロングスポーツⅠ（ゴルフ、テニス、バドミントン自由選択） フィットネス・ワークアウトⅠ（コーディネーショントレーニング&パワークーフトレーニング） A I K I - I 	神岡中学校体育館
TCCP (Twilight Child Care Program)	<ul style="list-style-type: none"> こども（小学生以下） 	<ul style="list-style-type: none"> 17時半以降の学童を実現。「学童保育」を「潜在能力を伸ばす場」に意識改革。子供たちに「思いやり」「仲間づくり」「自主性」「自立・自律」を気づかせる 	<ul style="list-style-type: none"> テニス バドミントン ホッケー 	神岡小学校体育館
WHCP (Weekend Health Care Program)	<ul style="list-style-type: none"> 中学生 高校生 大人 	<ul style="list-style-type: none"> 「部活動」を「ウェルネス活動」に意識改革。健康意識向上と人生を通じて楽しめるスポーツ活動の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ライフロングスポーツ（ゴルフ、テニス、バドミントン自由選択） エクササイズ・ウォーキングⅡ フィットネス・ワークアウトⅡ（コーディネーショントレーニング&パワークーフトレーニング） A I K I - II 	神岡中学校体育館

出所：飛騨シューレ資料 P10 より

(2) プログラムの実施状況

一般成人向けプログラムである「PHCP」及び中高生を対象とした「WHCP」の実施実績は以下の通り。

図表 30 PHCP実施状況

プログラム	日付	種目	参加人数	
			男性	女性
PHCP (19:00~20:30)	10月12日	ゴルフ		8
	10月13日	ゴルフ	9	
	10月26日	ゴルフ		8
	10月27日	ゴルフ	9	
	11月9日	ウォーキング		8
	11月10日	バドミントン	9	
	11月23日	バドミントン		8
	11月24日	ボール	9	
	12月8日	バドミントン	9	
	12月14日	テニス		8
	12月15日	テニス	9	
12月21日	テニス		8	

図表 31 WHCP実施状況

プログラム	日付	時間	種目	参加人数	
				ファミリー	6年生
WHCP	10月24日	10:30~12:00	ゴルフ	10	-
		13:30~15:00	バスケット	-	3
	10月31日	10:30~12:00	ゴルフ	6	-
		13:30~15:00	バスケット	-	4
	11月7日	13:30~15:00	ゴルフ	4	-
		10:30~12:00	バスケット	-	4
	11月14日	13:30~15:00	ゴルフ	5	-
		10:30~12:00	バスケット	-	3
	11月21日	13:30~15:00	テニス	4	-
		10:30~12:00	バスケット	-	3
	11月28日	10:30~12:00	バドミントン	6	-
		9:00~10:30	バスケット	-	3
	12月5日	10:30~12:00	ホッケー	5	-
		9:00~10:30	バスケット	-	3
	12月12日	10:30~12:00	なわとび	4	-
		9:00~10:30	バスケット	-	4
	1月23日	10:30~12:00	テニス	4	-
		9:00~10:30	バスケット	-	4
	1月30日	10:30~12:00	ホッケー	4	-
		9:00~10:30	バスケット	-	4
	2月6日	10:30~12:00	なわとび	4	-
		9:00~10:30	バスケット	-	4
	2月27日	10:30~12:00	ボール		
		9:00~10:30	バスケット		

図表 32 活動の様子

WHCP の活動



PHCP の活動①



PHCP の活動②



PHCP の活動③



(3) 課題

① 実証事業への新型コロナウイルスの感染拡大の影響について

新型コロナウイルスの影響により、学校体育施設が休館。プログラム開始が10月にずれこんだ。また、海外・国内の学生受け入れについても、大きく影響した。国内の学生については大学のガイドラインにより県外への外出自粛を求められた。海外の学生についてはインターンシップ事業の提携をしたが、提携先の海外大学Aが2021年度国際プログラムを全面的に中止したため日本への渡航ができなかった。

② 個別事業の課題

1) PHCPについての課題

寒冷地のため、体育館温度が非常に低く、冬場のプログラム実施及び参加者の運動意向上を高めるのが非常に厳しかった。1月以降のプログラム実施も計画したものの、夜間の体育館室温が0度もしくは氷点下のことがあり中止することとした。

また、当初、男女混合で募ったが、一部参加者から「男女別の方が参加しやすい」という提案をいただいたため、男女別にプログラムを途中から導入した。「男女に分けることによりのびのびからだを動かせた」という参加者の声があった。(アンケート結果参照)

2) TCCP実施にあたっての課題

ア) 課題認識

校舎改修工事が計画より遅れ、工事車両の出入り等で使用予定の体育館駐車場および外部者出入り口付近が大変狭くなっており、安全性に不安がある状態となった。

また、保護者が同伴せずこどもが20時以降に外出している状況にあることは、普段学校で「早寝」と指導していることと矛盾するのではないかとの指摘があった。

また、夕食を提供するかどうか、食事提供する場合、アレルギー対策はどうするのかといった課題提起もなされた。さらに、コロナ感染予防の観点から考えると多人数の飲食は控えるべきではないかとの指摘がなされた。

上記の意見を受けて、今年度のTCCP開催は困難となった。そのため、次年度以降の実施を見据課題や解決の方向性を校長経験者と議論することとした。

イ) 校長ヒアリングより得られた次年度以降の方向性

プログラム実施が困難になったことを受け、校長経験者へのヒアリングを実施した。その主な指摘事項は以下の通り。

特に、本プログラムの趣旨を親に理解させること、また、アレルギーによる事故等万が一の際の対応を考え、食事を提供する場合には書面による事前の合意を取り付けておくことも重要であるとの指摘が見られた。

これらを踏まえ次年度以降のプログラムの開催を目指すこととする。

図表 33 次年度以降の実施に向けた指摘事項(夜間の学童保育プログラムの実施)

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・ スポーツ学童 TCCP の目的について、なぜこのプログラムを実施しているかという点、こどもたちの自主性を伸ばしていく点などについて、保護者に把握してもらうための周知が必要である。・ 各家庭の考え方やこどもの実情に合わせ、時間帯設定を調整し色んなバリエーションで管理対応するのが良い。・ 体育館利用においては、備品を使用する際のルール決めは必要である。・ アレルギーを持つこどもへの対応については、書面でのやりとりが大事である。・ プログラムは来年度以降も継続していくことが望ましい。 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ WHCP開催にあたっての課題

ア) 課題認識

当初対象は中学生以上としたが、部活動等で忙しく中学生の参加は難しい状況であった。そのため、小学生にも対象を広げ声掛けしたところ、送迎を兼ね保護者も一緒に参加するファミリー層が一定程度見られた。

今後、中学生の参加を促すため、オブザーバーの上口淳氏(神岡中学校長)にヒアリングし、次年度以降のプログラム実施のための課題の整理を行った。

小学生の児童と両親での参加に切り替えることにより、以下の3点がポジティブな反応としてみ

られた。

図表 34 両親との参加によるポジティブな影響

- ・ 大人の運動不足解消
- ・ こどもとの時間の確保
- ・ こどもが安心して参加できる

また、小学生の本プログラムへの反応としては、「部活につなげたい」という反応と、「部活とは別で毎週日曜日のプログラムを続けたい」とは2極化していることも興味深かった。

イ) 校長ヒアリングより得られた次年度以降の方向性

上口氏へのヒアリング結果は以下の通り。

今後進められる部活動改変も踏まえ、行政と連携しつつプログラムを展開する必要性が指摘された。また、小学生といった若年世代から生涯続けられるスポーツへのかかわり方を学ぶことには意義があり、地域での受け皿を多様化させる必要性も指摘された。これはスポーツだけに限らず、文化系の部活動についても同様のことが言える。

図表 35 次年度以降の実施に向けた指摘事項(中学生の巻き込み方策)

- ・ 小学生から本プログラムのような活動を継続することが、結果的に生涯スポーツを続けられるようなライフスタイルに繋がるとの指摘があった。
- ・ 指導者を育成するための研修費や専門家の派遣など事務的なことはスポーツ協会が担うため、もっとスポーツ協会と関わってほしい。
- ・ 文化系の活動など色んな受け皿があるような体制があれば良い。
- ・ 生徒の送迎は、他の学校と連携し送迎バスを手配するなど、色んなパターンを増やしていく。
- ・ 体育館備品の使用は、教育委員会やスポーツ振興課が管理しているため調整が必要。鍵の受け取りはスムーズに出来るよう検討する。
- ・ 社会体育施設として考えた時に地域スポーツクラブとして予約システムは必要である。

2. 海外・国内大学生を巻き込んだプログラムの実施

企画書において、海外の学生を飛騨に招聘し、先進的なプログラムの実証の場として活用することを構想していた。

国外学生の受け入れに向けて、2021年6月には海外大学Aの担当部署との打ち合わせを実施し、インターン事業受け入れ組織としての登録を行い、その時点で可能な準備は終了した。

しかし、世界的なコロナ感染禍による影響で、2021年度のすべての海外大学Aの国際プログラムが中止になったため、本事業においても海外大学Aの学生の受け入れが困難な状況となった。来年度に向けた準備としては、担当者との次年度に向けた方向性の協議等を継続する予定である。

また、海外学生の招聘に合わせ、国内学生のインターンシップも併せて検討していたものの、コロナウイルスに伴う活動規制もあり、多人数を集めるようなイベントの開催は困難となった。

現地での受け入れは叶わなかったものの、国内大学 A で広報活動を行ったほか、国内大学 B においても本事業の説明・次年度に向けた参加喚起を行い、コロナウイルスの収束後、すみやかに国内学生の受け入れを可能とするよう準備をした。

図表 36 国内・国外学生のインターンプログラム 次年度に向けたスケジュール

2022 年 3 月まで	海外大学 A インターンシッププログラム担当局に、「インターンシッププログラム 2022 年度版申請書」及び「スーパーバイザーの選定とそれに付随する書類」の提出。
3 月～5 月	(海外大学 A) 上記認可が下り次第、現地のスーパーバイザーと連携し学生の募集開始。 (国内大学) 予め参加意思の見込める教員及び学生に「募集要項」を配布し、募集開始。
5 月	インターンシップ参加者の決定。オンラインオリエンテーションの実施。
6 月～9 月	インターンシッププログラム実施・実証報告書提出。
11 月	活動成果をランドテーブルにて発表。成果の課題を洗い出し 2023 年度に向けての計画策定

図表 37 国内大学の教員及び学生の本事業に関するコメント

- ・ チラシを見たとき、とても魅力的なプログラムだと感じたが、開催実績がなく結局躊躇して申し込みできなかった。写真等活動の様子が分かれば参加しやすい。(国内大学 A 学生)
- ・ 金銭の見返りではなく、学業的なメリットがあると応募者が集まるのではないか。(国内大学 A 学生)
- ・ 海外大学 A の学生と連携し、オンラインも活用しつつ発展的な広報をすることも考えられる。(国内大学 A 学生)
- ・ コロナの影響で学生たちの学校外での活動への参加が及び腰になっている。(国内大学 A 教員)
- ・ 大学の出席数にカウントすることができる仕組みも活用しつつ、次年度以降プログラムを組み立てることは可能だろう。(国内大学 A 教員)
- ・ 最近の学生は、現場に出て活動する(フィールドワーク)よりも、研究室で実験して論文を書く傾向が強い。しかし、今後、今回のような事業に関わらないと得られないようなデータを求める学生も出てくるはず。気長に毎年募集をしてみてもどうか。(B 大学教員)
- ・ 募集に関する広報は積極的に協力したい。より具体的なフィールドワークの日時・内容を示した方が学生たちは、スケジュール調整しやすいだろう。(B 大学教員)

3. HPによる広報・予約管理の柔軟化の取組の実施

(1) 課題意識

学校体育施設の利用を促進するためには、下記課題があると企画当初に整理し、その解決に向けてHP等の開設を行った。

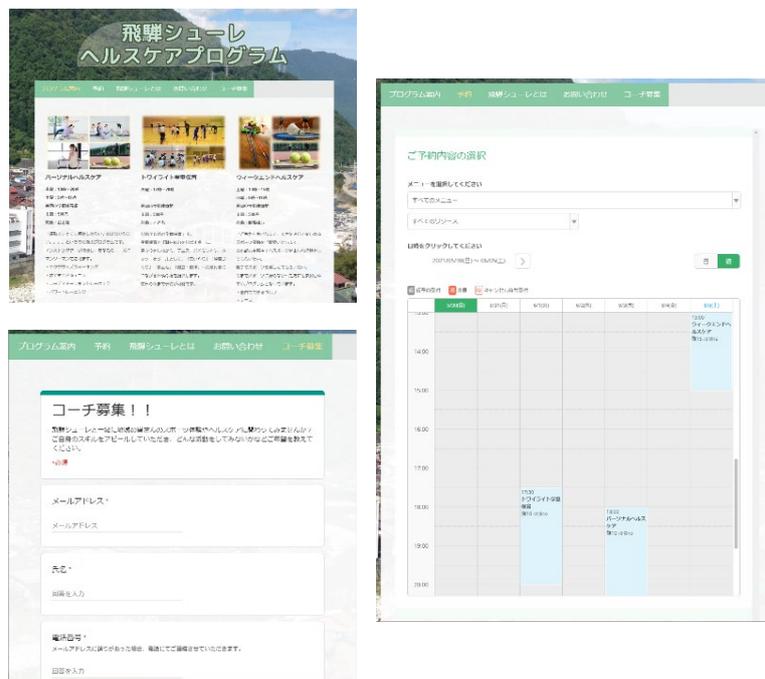
図表 38 課題

- ・ 社会体育施設と比較して学校体育施設の利用が低調であり、稼働率の向上が必要。
- ・ 利用者層が固定化されており、個人利用も進んでいない。
- ・ 管理者である市・教育委員会との連携がこれまでとれておらず、空いている時間帯があっても有効に活用することができなかつた。
- ・ 予約管理の方法が周知されておらず、限られた者しか使えない。また、「利用調整会議」にあたる調整手段がなく、「予約管理の見える化」が必要である。
- ・ 取り組みたいプログラムは多々あるものの、主にマンパワー不足により取り組むことが難しい。また、プログラムを展開するターゲット層の把握ができていない。

(2) 実施内容

下記の通りHPを開設し、プログラムの実施内容・日時・場所等が一覧的に把握できる仕組みを導入した。高齢者も利用することからできるだけ簡素で分かりやすいものとするを心掛けた。また、地域人材の有効活用の観点から、「コーチ募集」の機能も整備し、マンパワーの確保に取り組んだ。

図表 39 HPの様子



4. 事業推進委員会の運営

(1) 概要

「2. 事業の実施方針」「(2) 本事業の実施体制」において示した委員により「事業推進委員会」を組織した。目的は本プログラムの方向性の検討・共有・次年度に向けた課題整理である。また、コロナウイルスの拡大に伴い、中間報告は書面での開催とした。

(2) 各回の議題及び主なコメント

① 事業推進委員会（第一回）

1) 概要

第一回事業推進委員会の概要は以下の通り。

図表 40 事業推進委員会(第一回)

日時	2021年6月1日(火) 16:00~18:00
場所	神岡町公民会会議室
議事次第	1. 開会 2. 自己紹介 3-1. プログラム実施内容(飛驒シューレ) =質疑= 3-2. アンケート骨子案(日本総研) 3-3. 先行事例研究の提示(日本総研) 3-4. 本事業の概要・検討すべき論点(日本総研) 4. その他 5. 閉会

2) 主なコメント

本事業の実施方向性の説明がほとんどであり、内容に関する確認がほとんどであった。主なコメントは以下の通り。

図表 41 主なコメント

- ・ 飛驒市内の部活動の特徴を踏まえた検討が必要。強い部活動は、積極的に練習をしたい生徒が多い一方、競技志向の低い生徒の多い種目についてはそれに応じたプログラム内容とすべき。
- ・ 生徒は非常に忙しい。そのため、本プログラムに積極的に参加できる時間をさけるかには疑問が残る。
- ・ 保険の扱いに注意が必要。責任範囲の明確化が重要である。
- ・ コロナウイルスの拡大もあり、どの程度実施ができるか疑問。
- ・ 次年度以降、継続して事業を実施する観点が重要。国の補助金が付いたから今年度だけ実施したということにならないように注意してほしい。

② 中間報告（書面開催）

1) 概要

中間報告内容は以下の通り

図表 42 中間報告（書面開催）

日時	2021年12月7日（火）
場所	書面にて委員各位に報告
議事次第	<ul style="list-style-type: none">・ プログラムの実施状況・ 海外・国内学生の受入れ・ アンケートの実施・ 先進事例の研究、ヒアリング

2) 主なコメント

中間報告時の主なコメントは以下の通り。次年度以降の実施に向けて参考になるコメントが多くみられた。

図表 43 主なコメント

<ul style="list-style-type: none">・ 新型コロナウイルス拡大の懸念が続く中、実施可能なプログラムを確実にスタートさせたことに意義がある。・ TCCP の課題などが客観的に見えてきたと感じる。また、WHCP について、ファミリー層が主流になった経緯に興味がある。・ 学校体育施設の地域拠点化を目指す3つの項目の検討・評価が不十分である。とくに市教委など行政とどう連携したのか具体的な検討が欲しい。学校体育施設の利便性を議論するよりも、不便な点をいかに解決するかの議論が必要。・ TCCP について、子どもたちがこのプログラムに参加することでどのように変わるのか具体的に示すべき。アンケートを通じて参加させない理由を保護者に確認すべき。・ WHCP において、性別で参加日を分ける事は理想的ではないと考える。・ TCCP は、保護者や行政から指摘された懸念の解決方法を探り、次年度に繋げてほしい。

③ 事業推進委員会（第二回）

1) 概要

事業推進委員会（第二回）の概要は以下の通り。

図表 44 事業推進委員会(第二回)

日時	2022年2月14日（月）11：00～
場所	飛騨市内会議室（対面）
議事次第	<ol style="list-style-type: none">1. 開会のあいさつ2. 事業報告3. 意見交換4. その他

2) 主なコメント

図表 45 主なコメント

- ・ 岐阜県内の他の総合型地域スポーツクラブでも、HP からの予約等が課題になっている。先進事例として共有すべき。
- ・ 地域部活動化の流れはこどもたち・親もまだ予見できていない。今年度の取組でも部活動とレクリエーションのスポーツのすみ分けが分かりにくい部分があったと思う。こどもたちが主体的に取り組めるようなスポーツへの関わり方を模索する必要がある。
- ・ 学校施設の管理について、今後地域部活動化する流れを踏まえると、備品管理も含め、施設管理全般の在り方を見直す余地がある。
- ・ 次年度以降海外大学等からのインターンシップを進めていただきたい。指導者不足の解決につながる方策と考えられる。
- ・ 今後市で整備する予約管理システムと、学校体育施設の予約管理についても連携を検討する必要がある。
- ・ 親子で参加する観点はこどもの参加を促す意味で重要。保育の観点は魅力的と感じたので、次年度以降につなげて欲しい。
- ・ 飛騨シューレに加え、行政等皆様にご協力を頂きつつプロジェクトを進めることが重要。今年度は参加者が少なかったが、次年度以降少しずつその規模を広げられると良い。その際には身近な者からの評判が重要になるので、その点に留意した取組を期待する。

(3) アンケート調査の実施

① 参加者アンケートの実施（一般人・事前）

緊急事態宣言明けの10月中旬に、一般人参加者に向けてアンケート調査を実施した。概要は、以下のとおりである。

図表 46 一般参加者向けアンケート概要(事前)

項目	内容
実施時期	2021年10月中旬
対象	一般人参加者
年齢	50代以上
回答数	17

図表 47 主な質問

設問	内容
1-1	あなたの年代について、お答えください。
1-2	あなたの性別について、お答えください。
2-1	なぜ本プログラムへ参加しようと思ったのですか。(複数回答可)
3-1	ご自身の健康状態について教えてください。(一つ選択)
3-2	どの程度普段運動をしていますか。(一つ選択)
3-3	スポーツにより取り組みやすくするための条件を教えてください。(複数回答可)
4-1	参加したいプログラムは何ですか。(複数回答可)
4-2	今回のプログラムに期待することは何ですか。(複数回答可)
5-1	HPで予約ができることを知っていましたか。また、どこでそれを知りましたか。(一つ選択)
5-2	どのような機能がHPにあると、参加がしやすいと思いますか。(複数回答可)
6-1	一プログラムあたり以下の金額だった場合、どのように感じますか。(それぞれ一つ選択)
6-2	参加費の支払い方法や支払いタイミングについて希望はありますか。(一つ選択)
6-3	今回、参加費(500円)を徴収することで、参加することを躊躇しましたか。(一つ選択)
6-4	会費の利用目的について、望ましいものを選択してください。(複数回答可)

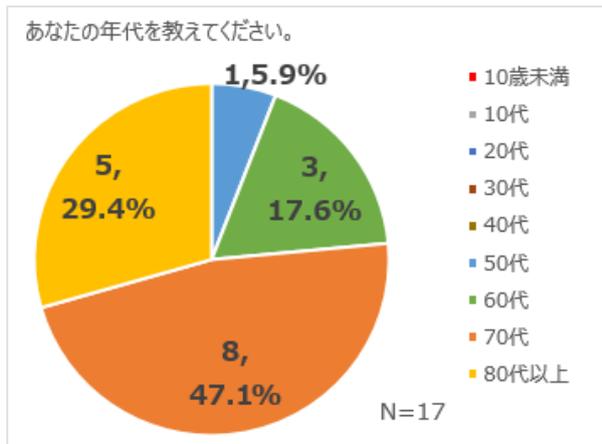
② 結果

アンケートの結果は以下の通り。

(ア) 年代

回答者は、70歳代が約半数で最も多く、続いて80歳代以上、60歳代となっており、高齢者が大

半を占めている。40歳代以下はいない。

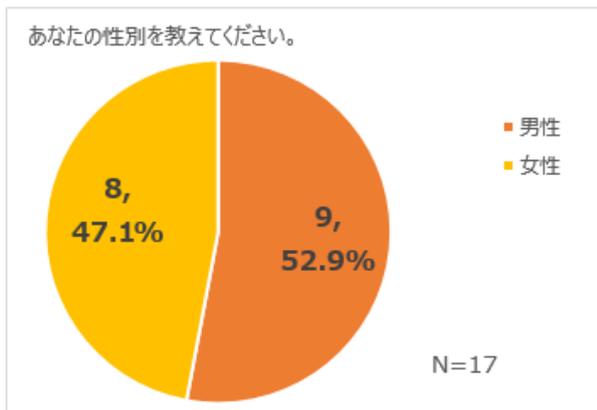


全体(n=17)

	N	%
10歳未満	0	0.0%
10代	0	0.0%
20代	0	0.0%
30代	0	0.0%
40代	0	0.0%
50代	1	5.9%
60代	3	17.6%
70代	8	47.1%
80代以上	5	29.4%
合計	17	100.0%

(イ) 性別

回答者は、男性が少し多いが男女ほぼ同じである。

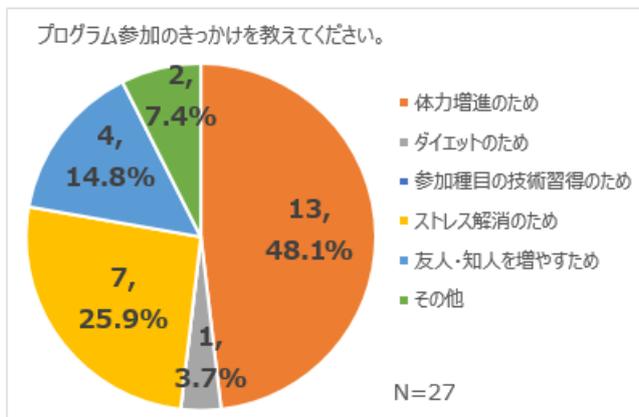


全体(n=17)

	N	%
男性	9	52.9%
女性	8	47.1%
答えたくない	0	0.0%
合計	17	100.0%

(ウ) 参加理由

体力増進のためにプログラムに参加される人が多く、その他、ストレス解消や友人・知人を増やすために参加される人もいる。

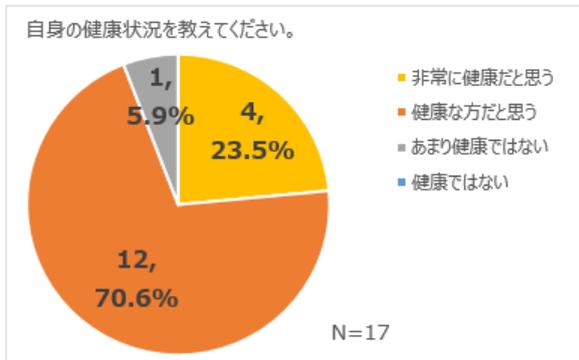


全体(n=27)

	N	%
体力増進のため	13	48.1%
ダイエットのため	1	3.7%
参加種目の技術習得のため	0	0.0%
ストレス解消のため	7	25.9%
友人・知人を増やすため	4	14.8%
その他	2	7.4%
合計	27	100.0%

(エ) 自身の健康状態

自身の健康状態について、ほとんどの人が健康だと感じている。

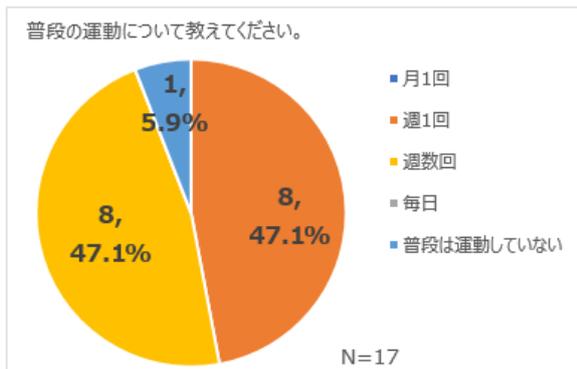


全体(n=17)

	N	%
非常に健康だと思う	4	23.5%
健康な方だと思う	12	70.6%
あまり健康ではない	1	5.9%
健康ではない	0	0.0%
合計	17	100.0%

(オ) 普段の運動

普段の運動について、週1回以上運動している人が多く、運動していない人は1割未満である。

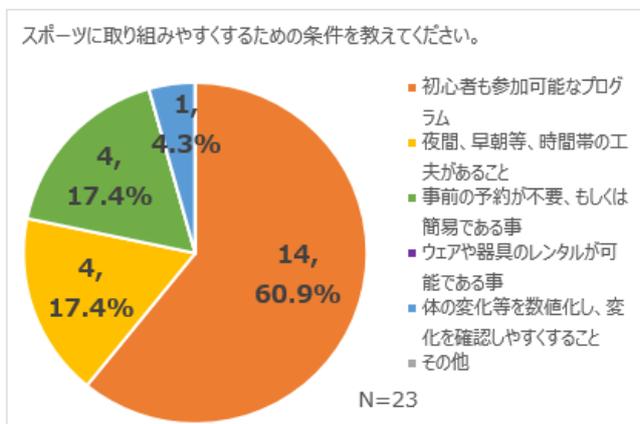


全体(n=17)

	N	%
月1回	0	0.0%
週1回	8	47.1%
週数回	8	47.1%
毎日	0	0.0%
普段は運動していない	1	5.9%
合計	17	100.0%

(カ) スポーツに取り組みやすくするための条件

スポーツ取組にあたっては、初心者も参加可能なプログラムであることが6割となっており、その他、時間帯の工夫や事前予約が簡単にできることが取り組みやすい条件となっている。

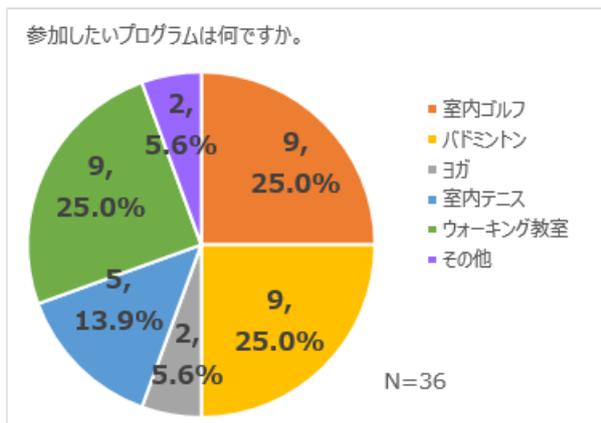


全体(n=23)

	N	%
初心者も参加可能なプログラム	14	60.9%
夜間、早朝等、時間帯の工夫があること	4	17.4%
事前の予約が不要、もしくは簡易である事	4	17.4%
ウェアや器具のレンタルが可能である事	0	0.0%
体の変化等を数値化し、変化を確認しやすくすること	1	4.3%
その他	0	0.0%
合計	23	100.0%

(キ) 参加したいプログラム

プログラムについては、室内ゴルフ、バドミントン、ウォーキング教室への参加希望が多く、室内テニスやヨガなど幅広い参加が期待される。

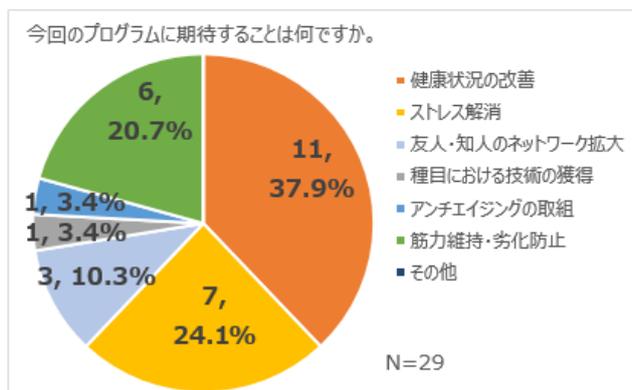


全体 (n=36)

	N	%
室内ゴルフ	9	25.0%
バドミントン	9	25.0%
ヨガ	2	5.6%
室内テニス	5	13.9%
ウォーキング教室	9	25.0%
その他	2	5.6%
合計	36	100.0%

(ク) プログラムに期待すること

今回のプログラムについて、健康状態の改善やストレス解消、筋力維持などが期待されている。

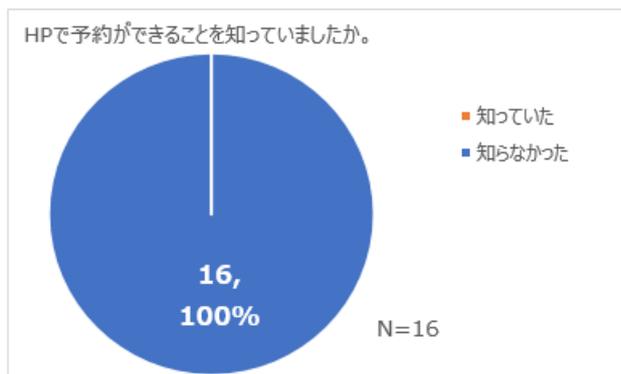


全体 (n=29)

	N	%
健康状況の改善	11	37.9%
ストレス解消	7	24.1%
友人・知人のネットワーク拡大	3	10.3%
種目における技術の獲得	1	3.4%
アンチエイジングの取組	1	3.4%
筋力維持・劣化防止	6	20.7%
その他	0	0.0%
合計	29	100.0%

(ケ) HP での予約

HP の予約について知っている人が一人もいないため、情報提供が必要である。

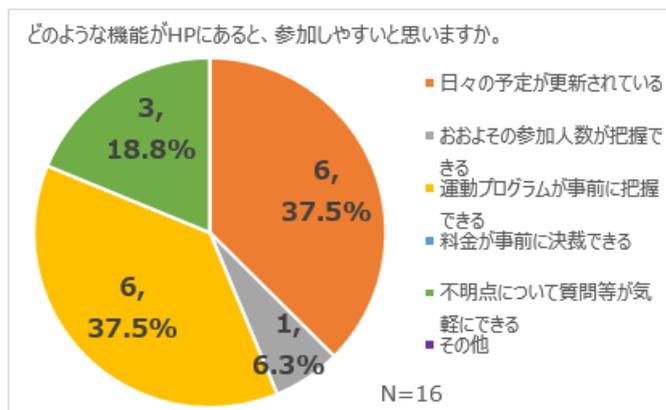


全体 (n=16)

	N	%
知っていた	0	0.0%
知らなかった	16	100.0%
合計	16	100.0%

(コ) HPの機能

HPの機能として、日々の予定更新、運動プログラムの事前把握などが重視されている。また、参加人数の把握や不明点について気軽に質問等ができる機能などの要望もある。



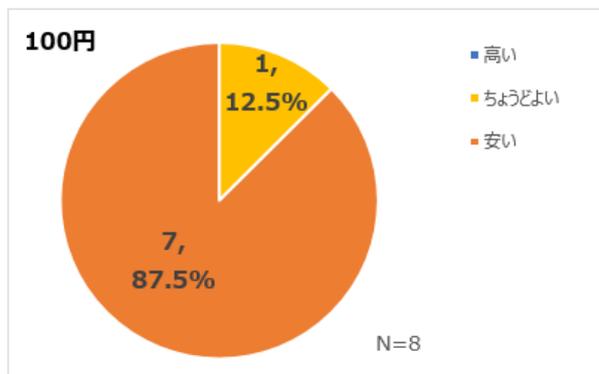
全体(n=16)

	N	%
日々の予定が更新されている	6	37.5%
おおよその参加人数が把握できる	1	6.3%
運動プログラムが事前に把握できる	6	37.5%
料金が事前に決裁できる	0	0.0%
不明点について質問等が気軽にできる	3	18.8%
その他	0	0.0%
合計	16	100.0%

(サ) プログラムの金額

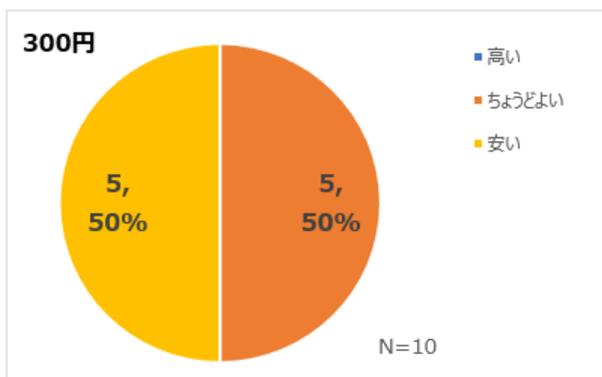
参加費の金額について、約8割の人は、100円は安いと感じ、500円がちょうどよいと感じている。参加費1,000円は回答者全員が高いと感じている。

一プログラムあたりの参加費をどう感じるか。(100円、300円、500円、700円、1,000円)



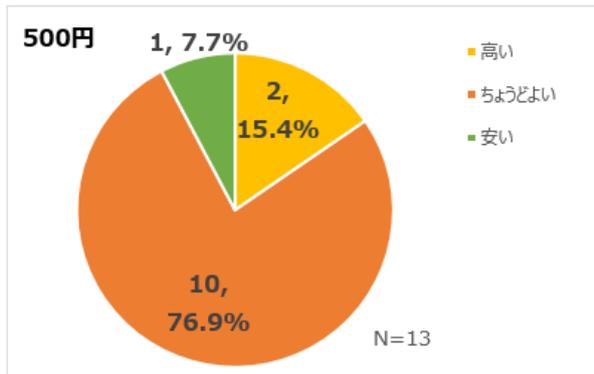
全体(n=8)

	N	%
高い	0	0.0%
ちょうどよい	1	12.5%
安い	7	87.5%
合計	8	100.0%



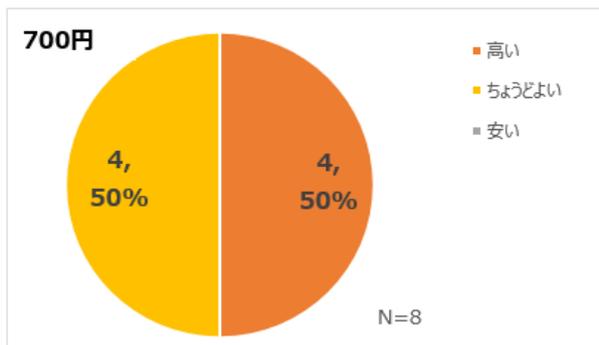
全体(n=10)

	N	%
高い	0	0.0%
ちょうどよい	5	50.0%
安い	5	50.0%
合計	10	100.0%



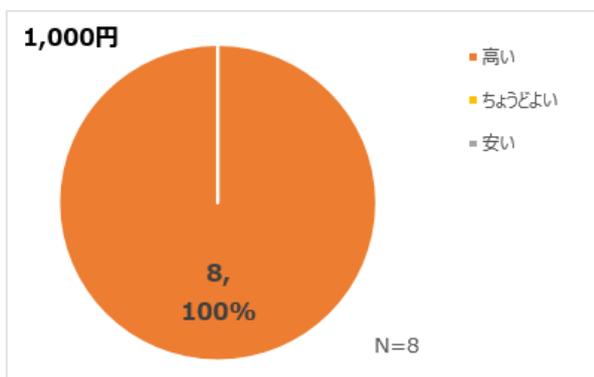
全体 (n=13)

	N	%
高い	2	15.4%
ちょうどよい	10	76.9%
安い	1	7.7%
合計	13	100.0%



全体 (n=8)

	N	%
高い	4	50.0%
ちょうどよい	4	50.0%
安い	0	0.0%
合計	8	100.0%



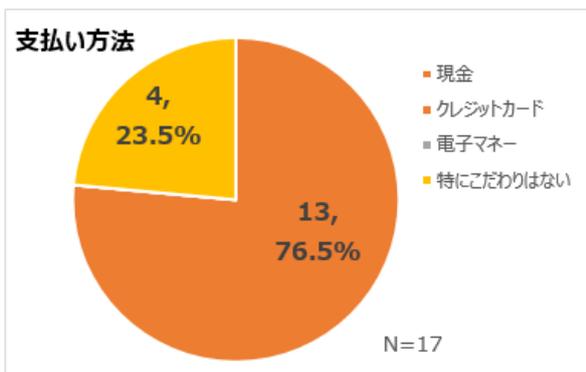
全体 (n=8)

	N	%
高い	8	100.0%
ちょうどよい	0	0.0%
安い	0	0.0%
合計	8	100.0%

(シ) 参加費の支払い方法および支払いタイミング

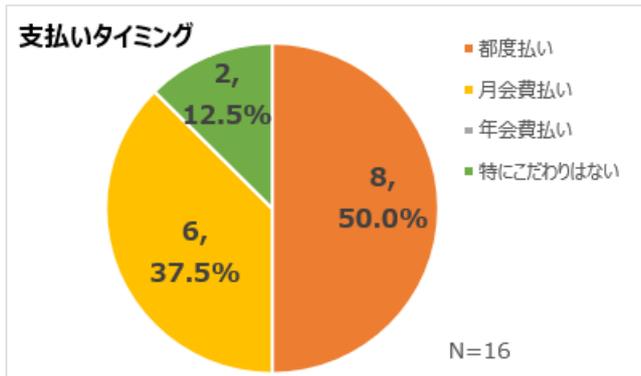
参加費支払いについては、現金で都度払いもしくは月会費払いを希望する人が多い。

参加費の支払い方法や支払いタイミンの希望について



全体 (n=17)

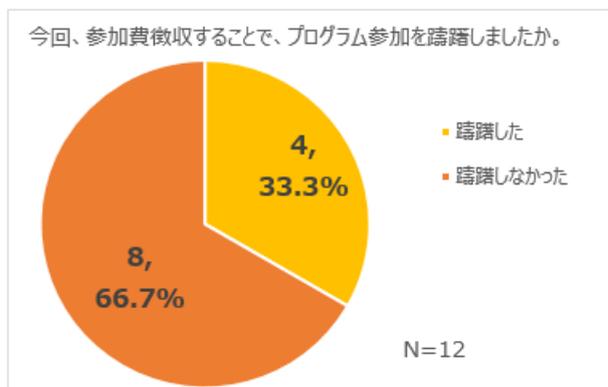
	N	%
現金	13	76.5%
クレジットカード	0	0.0%
電子マネー	0	0.0%
特にこだわりはない	4	23.5%
合計	17	100.0%



全体 (n=16)

	N	%
都度払い	8	50.0%
月会費払い	6	37.5%
年会費払い	0	0.0%
特にこだわりはない	2	12.5%
合計	16	100.0%

(ス) 参加費 (500 円) の徴収により参加を躊躇したかどうか
 今回のプログラム参加にあたり、参加費 500 円を徴収することで、参加することを躊躇しなかった人の方が多かった。

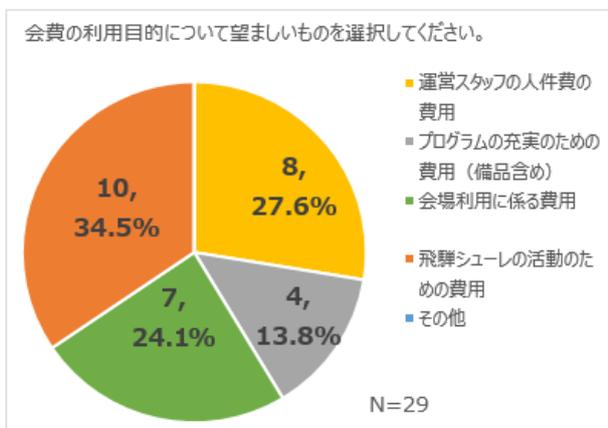


全体 (n=12)

	N	%
躊躇した	4	33.3%
躊躇しなかった	8	66.7%
合計	12	100.0%

(セ) 会費の利用目的

会費の利用目的については、飛騨シューレの活動や運営スタッフの人件費、会場利用に係る費用として利用することが望ましいと考える人が多い。



全体 (n=29)

	N	%
運営スタッフの人件費の費用	8	27.6%
プログラムの充実のための費用 (備品含め)	4	13.8%
会場利用に係る費用	7	24.1%
飛騨シューレの活動のための費用	10	34.5%
その他	0	0.0%
合計	29	100.0%

③ 参加者アンケートの実施（一般人・事後）

事業終盤の2022年1月に一般人参加者に向けてアンケート調査を実施した。概要は、以下のとおりである。

図表 48 一般参加者向けアンケート概要（事後）

項目	内容
実施時期	2022年1月
対象	一般人参加者
年齢	50代以上
回答数	15

図表 49 主な質問

設問	内容
1-1	あなたの年代について、お答えください。
1-2	あなたの性別について、お答えください。
2-1	今回のプログラム参加後の全般的な感想を教えてください。（一つ選択）
2-2	本プログラムにおいて、工夫がみられた、もしくは優れていたと感じる点を選択してください。（複数回答可）
2-3	本プログラムについて改善すべき点があれば教えてください。（複数回答可）
2-4	今回男女別のプログラムを採用しましたが、その印象を教えてください。（一つ選択）
2-5	2-4にてアを選択した方に伺います。男女を分けた方が望ましいと考える理由を教えてください。（一つ選択）
2-6	2-4にてイを選択した方に伺います。男女混合の方が望ましいと考える理由を教えてください。（一つ選択）
3-1	プログラム参加により、健康面等の意識に変化はありましたか。（一つ選択）
3-2	プログラム参加により変化があったと答えた方について、どのような変化がありましたか。（複数回答可）
4	本事業は一般人のスポーツ阻害要因を解決することを目指していました。以下の点について、阻害要因の解決に関して効果があったと思われる項目を選択してください。（複数回答可）
5-1	今後提供を希望するプログラムはありますか。（複数回答可）
5-2	個人向けプログラムと集団向けプログラムどちらを希望しますか。（一つ選択）
6-1	本プログラムでは、ホームページを開設し、プログラムの広報等に努めました。HPの印象を教えてください。（一つ選択）
6-2	HPに新たに求める機能はありますか。（複数回答可）

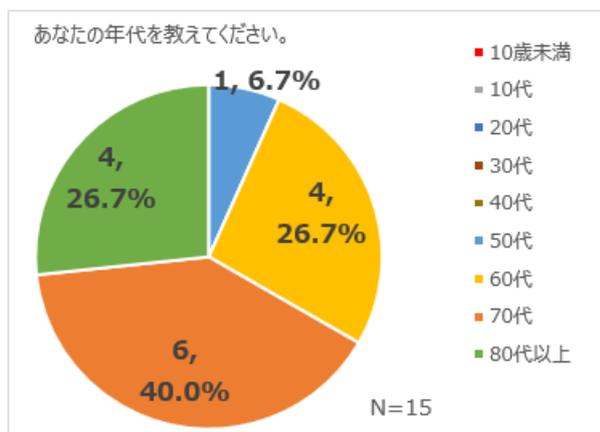
7-1	今回のプログラムの内容を踏まえ、負担が妥当な金額は何円程度と感じるでしょうか。(一つ選択)
7-2	どのような形で参加費が利用されると望ましいと思いますか。(複数回答可)
8-1	今回学校体育施設で活動を実施しました。活動場所として、学校体育施設を利用することに関するご感想を教えてください。
8-2	学校体育施設を利用するにあたり、好印象であった点や優れていると感じた点を教えてください。(複数回答可)
8-3	学校体育施設を利用するにあたり、課題のある点を教えてください。(複数回答可)

④ 結果

アンケートの結果は以下の通り。

(ア) 年代

回答者は、70歳代以上が4割で最も多く、続いて60歳代、80歳代となっており、高齢者が大半を占めている。40歳代以下はいない。

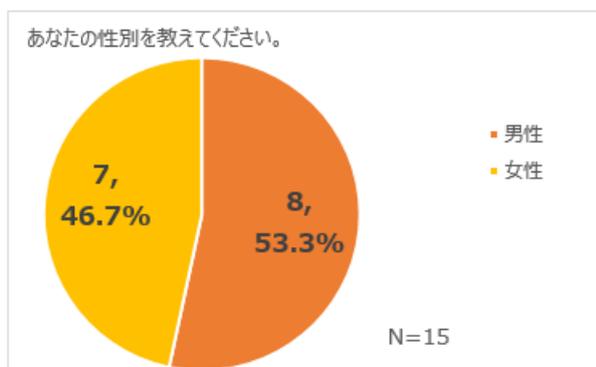


全体(n=15)

	N	%
10歳未満	0	0.0%
10代	0	0.0%
20代	0	0.0%
30代	0	0.0%
40代	0	0.0%
50代	1	6.7%
60代	4	26.7%
70代	6	40.0%
80代以上	4	26.7%
合計	15	100.0%

(イ) 性別

回答者は、男性が少し多いが男女ほぼ同じである。



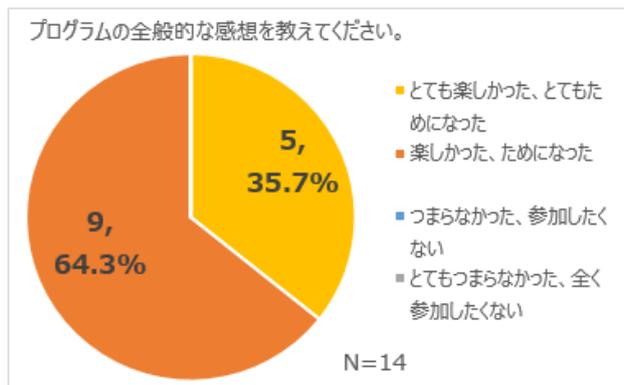
全体(n=15)

	N	%
男性	8	53.3%
女性	7	46.7%
合計	15	100.0%

(ウ) 感想

回答者全員が、楽しかった、ためになったと回答した。

全体 (n=14)

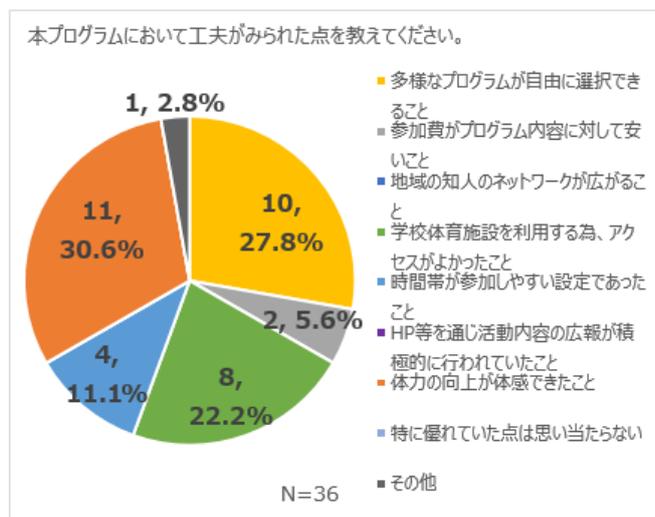


	N	%
とても楽しかった、とてもためになった	5	35.7%
楽しかった、ためになった	9	64.3%
つまらなかった、参加したくない	0	0.0%
とてもつまらなかった、全く参加したくない	0	0.0%
合計	14	100.0%

(エ) 本プログラムにおいて工夫がみられた点

プログラムの工夫について、体力の向上が体験できた、多様なプログラムが自由に選択できるという回答が約3割と多く、また、アクセスが良いという回答が2割程あった。

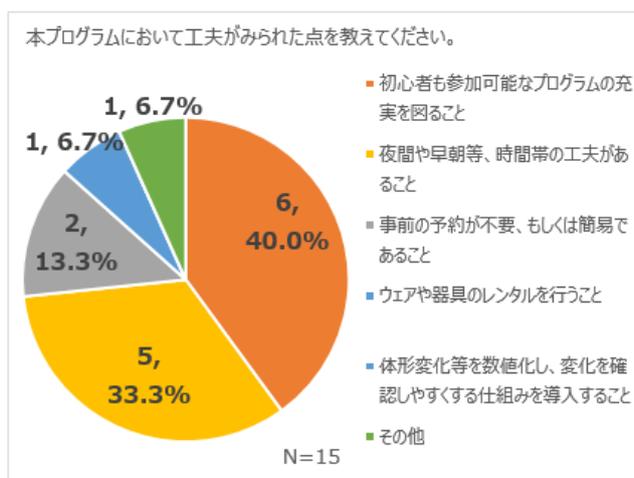
全体 (n=36)



	N	%
多様なプログラムが自由に選択できること	10	27.8%
参加費がプログラム内容に対して安いこと	2	5.6%
地域の知人のネットワークが広がること	0	0.0%
学校体育施設を利用する為、アクセスがよかったこと	8	22.2%
時間帯が参加しやすい設定であったこと	4	11.1%
HP等を通じ活動内容の広報が積極的に行われていたこと	0	0.0%
体力の向上が体感できたこと	11	30.6%
特に優れていた点は思い当たらない	0	0.0%
その他	1	2.8%
合計	36	100.0%

(オ) 本プログラムにおいて改善すべき点

改善点として、約4割が初心者も参加可能なプログラムの充実を図る点を指摘し、時間帯の工夫が必要である点も挙げられた。

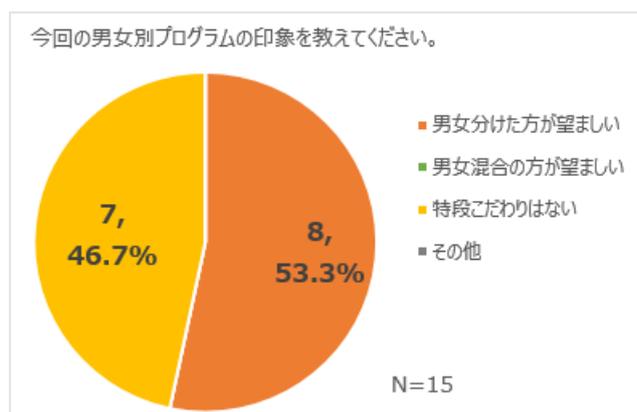


全体 (n=15)

	N	%
初心者も参加可能なプログラムの充実を図ること	6	40.0%
夜間や早朝等、時間帯の工夫があること	5	33.3%
事前の予約が不要、もしくは簡易であること	2	13.3%
ウェアや器具のレンタルを行うこと	1	6.7%
体形変化等を数値化し、変化を確認しやすくする仕組みを導入すること	0	0.0%
その他	1	6.7%
合計	15	100.0%

(カ) 男女別プログラムの印象

男女別プログラムについて、男女分けた方が望ましいと回答した人が半数以上いた。

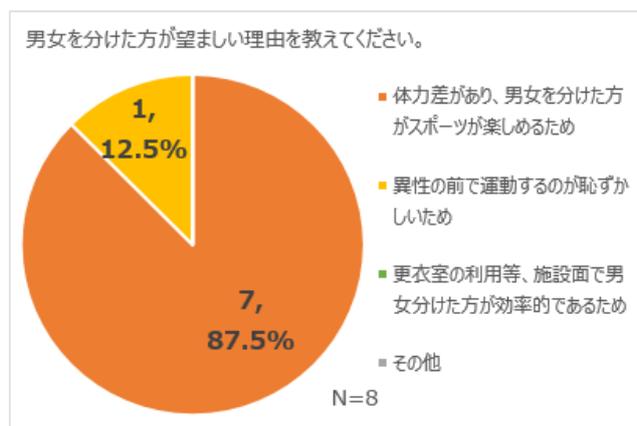


全体 (n=15)

	N	%
男女分けた方が望ましい	8	53.3%
男女混合の方が望ましい	0	0.0%
特段こだわりはない	7	46.7%
その他	0	0.0%
合計	15	100.0%

(キ) 男女を分けた方が望ましい理由

男女を分けた方が望ましい理由として、体力差があるためという回答が約9割あった。

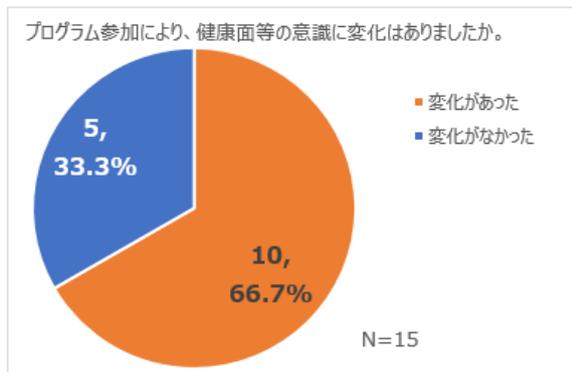


全体 (n=8)

	N	%
体力差があり、男女を分けた方がスポーツが楽しめるため	7	87.5%
異性の前で運動するのが恥ずかしいため	1	12.5%
更衣室の利用等、施設面で男女分けた方が効率的であるため	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	8	100.0%

(ク) 健康意識の変化

健康意識について、変化があったと回答した人は約7割もいた。

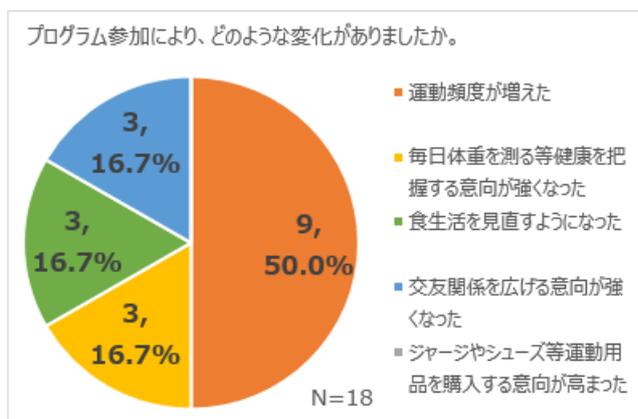


全体 (n=15)

	N	%
変化があった	10	66.7%
変化がなかった	5	33.3%
合計	15	100.0%

(ケ) 変化の内容

約半数が運動頻度が増えたと回答し、その他、健康把握や食生活の見直しなどの回答があった。

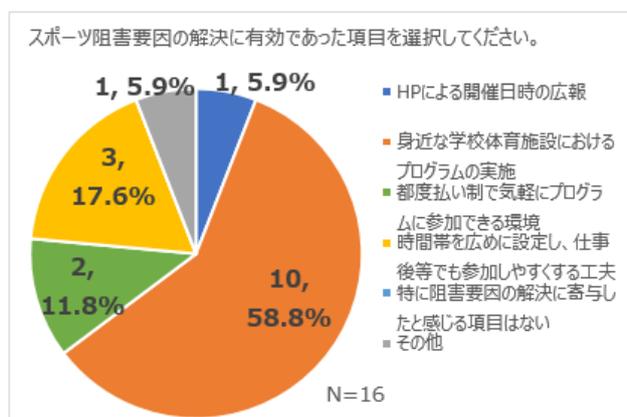


全体 (n=18)

	N	%
運動頻度が増えた	9	50.0%
毎日体重を測る等健康を把握する意向が強くなった	3	16.7%
食生活を見直すようになった	3	16.7%
交友関係を広げる意向が強くなった	3	16.7%
ジャージやシューズ等運動用品を購入する意向が高まった	0	0.0%
合計	18	100.0%

(コ) スポーツ阻害要因の解決に有効だった点

スポーツ阻害要因の解決において、学校体育施設におけるプログラム実施という回答が6割以上あった。

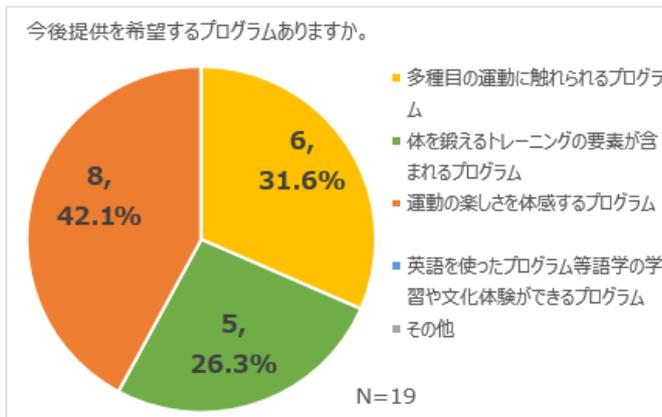


全体 (n=16)

	N	%
HPによる開催日時の広報	1	6.3%
身近な学校体育施設におけるプログラムの実施	10	62.5%
都度払い制で気軽にプログラムに参加できる環境	2	12.5%
時間帯を広めに設定し、仕事後等でも参加しやすくする工夫	3	18.8%
特に阻害要因の解決に寄与したと感じる項目はない	0	0.0%
その他	1	6.3%
合計	16	100.0%

(サ) 今後提供を希望するプログラム

運動の楽しさを体感するプログラムや、多種目の運動に触れられるプログラムの提供が期待されている。

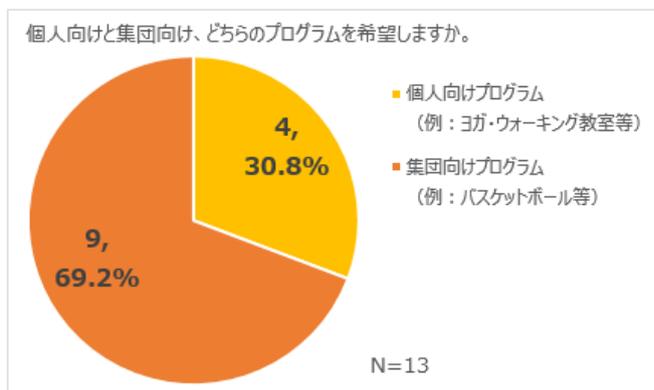


全体 (n=19)

	N	%
多種目の運動に触れられるプログラム	6	31.6%
体を鍛えるトレーニングの要素が含まれるプログラム	5	26.3%
運動の楽しさを体感するプログラム	8	42.1%
英語を使ったプログラム等語学の学習や文化体験ができるプログラム	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	19	100.0%

(シ) 個人向けプログラムと集団向けプログラム

集団向けプログラムへの参加を希望すると回答した人の方が多く、約7割となっている。

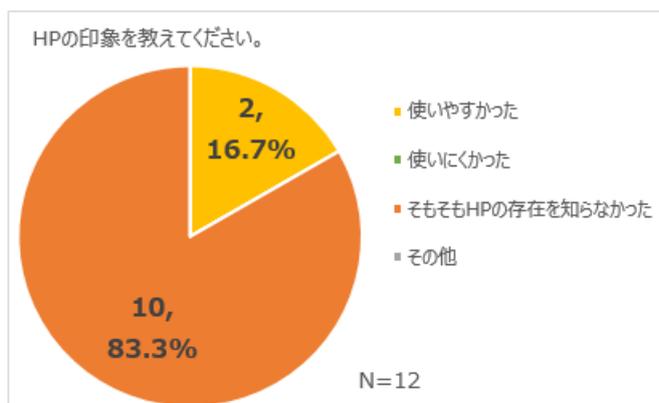


全体 (n=13)

	N	%
個人向けプログラム (例: ヨガ・ウォーキング教室等)	4	30.8%
集団向けプログラム (例: バスケットボール等)	9	69.2%
合計	13	100.0%

(ス) HP の印象

HP について、そもそも存在を知らないと回答した人が8割以上もいたが、HP を利用した人は、使いやすかったと回答があった。

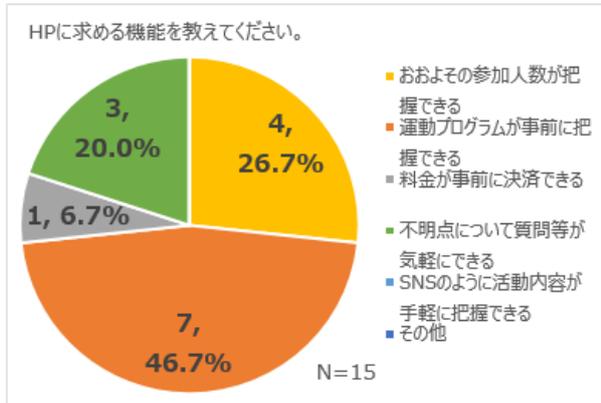


全体 (n=12)

	N	%
使いやすかった	10	83.3%
使いにくかった	2	16.7%
そもそもHPの存在を知らなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	12	100.0%

(セ) HPに求める機能

運動プログラムの事前把握や、参加人数が把握できる機能が必要とされている。

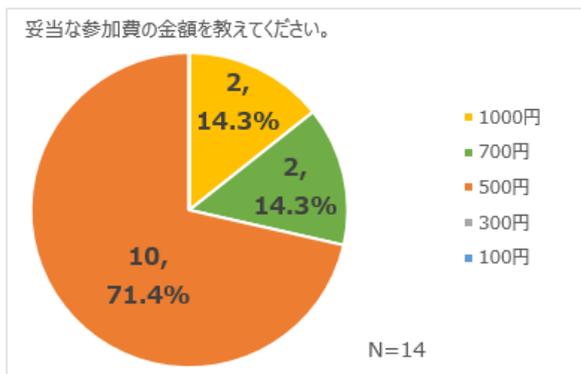


全体 (n=15)

	N	%
おおよその参加人数が把握できる	4	26.7%
運動プログラムが事前に把握できる	7	46.7%
料金が事前に決済できる	1	6.7%
不明点について質問等が気軽にできる	3	20.0%
SNSのように活動内容が手軽に把握できる	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	15	100.0%

(ソ) 妥当な参加費

500円という回答が7割以上、700円、1000円という回答もあった。

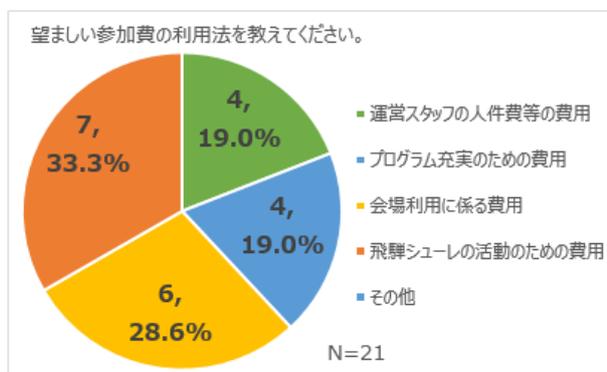


全体 (n=14)

	N	%
1000円	2	14.3%
700円	2	14.3%
500円	10	71.4%
300円	0	0.0%
100円	0	0.0%
合計	14	100.0%

(タ) 望ましい参加費の利用法

飛騨シューレの活動費や、会場費としての利用を望む人が多い。

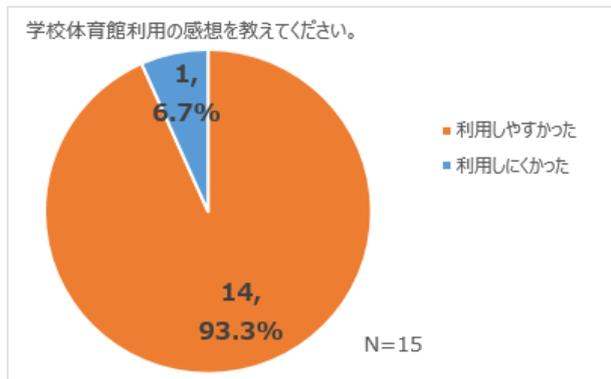


全体 (n=21)

	N	%
運営スタッフの人件費等の費用	4	19.0%
プログラム充実のための費用	4	19.0%
会場利用に係る費用	6	28.6%
飛騨シューレの活動のための費用	7	33.3%
その他	0	0.0%
合計	21	100.0%

(チ) 学校体育館利用の感想

学校体育館について、ほとんどの人が利用しやすかったと回答した。

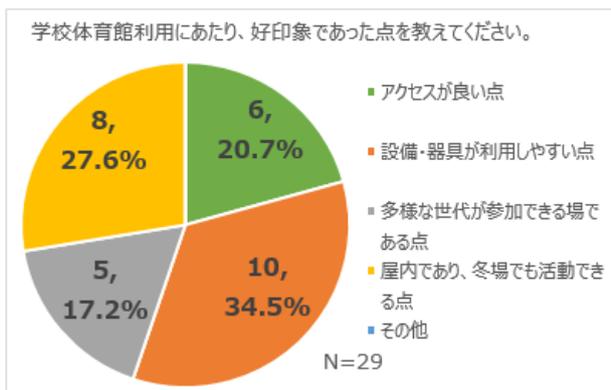


全体 (n=15)

	N	%
利用しやすかった	14	93.3%
利用しにくかった	1	6.7%
合計	15	100.0%

(ツ) 学校体育館利用のメリット

設備・器具が利用しやすい点や、屋内で冬場の活動ができる点が挙げられた。

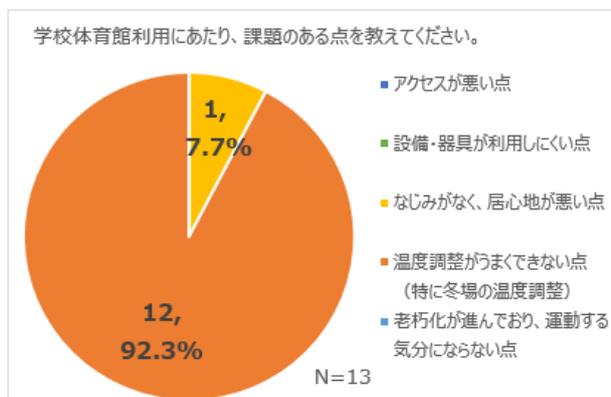


全体 (n=29)

	N	%
アクセスが良い点	6	20.7%
設備・器具が利用しやすい点	10	34.5%
多様な世代が参加できる場である点	5	17.2%
屋内であり、冬場でも活動できる点	8	27.6%
その他	0	0.0%
合計	29	100.0%

(テ) 学校体育館利用の課題

冬場の温度調整が課題点となっている。



全体 (n=13)

	N	%
アクセスが悪い点	0	0.0%
設備・器具が利用しにくい点	0	0.0%
なじみがなく、居心地が悪い点	1	7.7%
温度調整がうまくできない点 (特に冬場の温度調整)	12	92.3%
老朽化が進んでおり、運動する気分にならない点	0	0.0%
合計	13	100.0%

⑤ アンケート調査から得られる示唆

一般人について、本プログラムの開始当初及び終盤にアンケート調査を実施したが、そこから得られた示唆は以下の通り。

(望ましいプログラム)

- ・ 開始当初及び終盤共に「運動の楽しさを感じられるプログラム」への需要が高かった。
- ・ 参加の目的としては「体力増進・ダイエット」が半数程度であった。
- ・ 必ずしも筋トレ等のメニューではなかったが、「健康意識に変化が見られた」と回答した者は多く、運動頻度が増えたことに加え、食生活にも注意をするようになったという回答も見られた。
- ・ 課題として、初心者でも参加できるプログラムの充実、時間帯の工夫の意見が見られた。
- ・ また、集団向けプログラム（バスケットボール等）を望む声も多かったものの、個人向けプログラム（ヨガ等）の需要も見られたため、ニーズに応じて選択可能なプログラムの多様性を担保しておくことも重要と感じた。

(HP 等の活用)

- ・ HP の知名度が低い点は反省すべき点である。（約 83%）
- ・ ただし、知っている者からは「使いやすい」という反応も見られた。また、実施される運動プログラムのスケジュールやおよその参加人数が把握できることも改善の方向性として示唆されている。

(会費)

- ・ 料金設定としては 500 円が妥当という回答が 7 割を超えている。500 円以下の回答はなく、今回の料金設定は妥当なものであったと考えられる。
- ・ 事前調査では 1000、700 円は高い戸回答をする割合も一定程度見られたことから、「プログラムの内容を体験すれば支払いが可能と考える金額は高くなる」傾向が読み取れる。
- ・ 事前調査では、500 円という参加設定に対して「参加を躊躇した」と回答した者も 3 割程度見られたが、終盤の調査では、「500 が妥当」と回答した者は 7 割程度であった。

(学校体育施設のメリット・デメリット)

- ・ 身近な学校体育施設で実施することが、スポーツ実施を阻害する要因の解決に有効であったとの回答がみられた。9 割以上が、学校体育施設が利用しやすいという感想である。
- ・ 理由は、設備・器具が利用しやすいこと、アクセスが良いことが挙げられた。
- ・ また、飛騨特有の事情として、屋内施設であることにより、雪が降ってもスポーツを実施できる点もメリットとして考えられている。
- ・ 課題としては、体育館が非常に寒いため、温度調整が課題という声が上がっている。

(4) 事業効果の総合的な評価

本報告書では、実施計画書で示した下記の項目に沿って事業効果の評価を行った。詳細は後述するが、本事業においては、当初企図した通りの成果が一定得られたと評価できる。一部、新型コロナウイルスの拡大等の影響により実施できない項目もあったがヒアリング等を通じて課題の整理

をしたことには意義があると感じている。

図表 50 事業成果の評価項目（案）

1 事業推進委員会による仕組みの検討	
(1)	運営スタッフの業務分担等の検討がなされたか。
(2)	学校体育施設の管理運営等の検討がなされたか。
(3)	事業評価がなされ、中長期的な改善への方策が明確になったか。
2 施設管理の仕組みの検討・検証（再委託事業含む）	
(1)	学校体育施設の利用や管理の先行研究の検討がなされたか。
(2)	学校体育施設の管理運営の課題が明確になったか。
(3)	実証事業の成果と課題を明確にして、報告書が出来上がったか。
3 部活動との関係性の整理	
(1)	関係者間の連携体制が構築されたか
(2)	参加者意識を整理し、適切な種目設定等について整理ができたか。
(3)	部活動の今後の活動のあり方・方向性等を提案できたか。
4 学校体育施設における有効なスポーツプログラムのあり方の検証	
(1)	通年実施したスポーツ教室等の参加者意識を整理できたか。
(2)	適切な受益者負担の在り方について論点整理ができたか

① 事業推進委員会による仕組みの検討

これまで行政や学校との情報交換を行う会議体がなかったものの、本事業を通じて体制の構築を行った。学校施設の管理運営については、実際にプログラムを実施する中で得られた課題・アンケートを通じて得られた課題はもちろん、有識者（校長経験者等）のヒアリングを通じて今後の中長期的な課題の整理を行った。

② 施設管理の仕組みの検討・検証（再委託事業含む）

先行研究の他、アンケート等を通じて利用者の抱えている課題を整理し、次年度以降の対応方策を検討した。また、報告書についても本書の通り作成している。

③ 部活動との関係性の整理

本来意図したような「中学生のプログラムの参加」はなされなかったものの、関係者間との課題の整理等を実施した。また、部活動の今後の在り方としては、今年度の課題も踏まえ、次年度以降に行政・スポーツ協会とも相談しつつ検討をすすめることとする。

④ 学校体育施設における有効なスポーツプログラムのあり方の検証

今回受益者負担を一定程度導入したことについては大きな意義があると認識している。アンケート等を通じて得られた課題も踏まえ、より持続的な活動を行うための論点整理をすることができた。

第4章 考察

1. 今年度のプログラムを通じて得られた示唆

今年度、行政も交えた会議体を組成し、国内外の大学生も巻き込みながら、多様な運動プログラムを提供する取組を行った。特に、「行政との連携」「学校体育施設の特異性を踏まえた事業展開」「部活動とのすみわけ」の観点で、示唆が得られたと感じている。以下、個別にその内容を概観したい。

① 行政との連携の重要性

今回市・教育委員会をはじめ、校長先生等教員の方にもご協力いただき事業をすすめてきた。

これまでは別個に事業を進め、偶然お互いの活動を知る、ということも多かった印象である。しかし、今年度会議体をもつこと、本事業を通じた問題意識の共有をすることによって、互いの状況を把握することができたと感じている。

また、飛騨シューレが先立って取り組み、上手くいかずに課題として現れたこと、もしくはある程度うまくいった実感が得られた内容は、飛騨シューレのノウハウ蓄積につながることは言うまでもないが、市・教育委員会にとっても全市的な施策の取組を進める上での良い参考となったのではないかと考えている。

学校体育施設の活用を進めていくためには、行政と利用団体との細かな連携や調整が必要である。規則からは読み取れないことも多くあり、細かな論点を一つ一つ議論し、連携して対応していく、そのプロセスが非常に重要であると感じた。

② 学校体育施設の特異性を踏まえた事業展開

特に、今回の事業のテーマである「学校体育施設の有効活用」という観点で、多く気づきを得られた。学校体育施設を利用しつつも、土日や夜間に利用するという点で、責任の所在があいまいになりがちなることもあり、明確に責任範囲を意識する重要性を特に感じた一年間であった。

保育プログラムを展開していくにあたり、食事提供の必要性を議論した。今年度実施することは叶わなかったものの、「親と事前のコミュニケーションをとること」「紙面にて責任範囲を明確化すること」等の具体的なアクションの方向性が得られたことは大きな成果であった。

また、寒冷地であることを踏まえ、体育施設に加えて、暖房機能が必要であることも今回の取組を通じて実感した部分である。このように施設面での課題は実際に事業を実施して初めて見えてくる部分も多い。今年度の取組を通じて引き続き、課題の整理・解決の検討を進めていきたい。

③ 部活動とのすみわけ

今回のプログラムの中でも「中学生」等の部活動に取り組む世代にターゲットをあてたものを準備したが、利用状況は芳しくなかった。これは、中学生が非常に忙しいことに加え、明確に本プログラムの特徴付けを行い、それを伝えることができなかったことに大きな原因があると考えている。事業推進委員会でも指摘があったが、部活動の位置づけは千差万別であり、そのそれぞれに応じたサポートの形があることを実感した。また、その際には若年層の目に触れやすい形で広報活動をする重要性も感じた。

2. 次年度以降の方向性

一般人向けのプログラムについては、学校体育施設を活用しつつ、実施ができたことは大きな成果である。反省点も活かしつつ、次年度以降も引き続き実施を目指したい。

今年度企画していたものの、新型コロナウイルスの拡大等もあり、うまく実施ができなかったプログラムについては、有識者からのアドバイスも踏まえ、次年度以降の実施に向けて課題を整理する。

特に、保育プログラムについては、「時間帯を、食事提供の有無をニーズに応じて分け、多様な参加形態を認める」こと、「アレルギーの対応のため書面にて親の承諾を得ること」などが重要な課題であると認識している。

部活動をサポートするプログラムについては、「プログラムの特徴付け」を整理する必要性を感じてる。たとえば飛騨市内の中学校の部活動について、「競技性の高い、低い」「部員数の多寡」等を分析し、真に中学生のニーズの高いプログラム内容を検討する。また、若年層の利用しやすい SNS を通じてプログラム内容を広報する必要性も再認識した。

特に、新型コロナウイルスの影響を受けたのは国内及び国外の学生の飛騨への招集である。継続的に可能性は模索したが、いかんせん難しかったのは心残りである。

海外学生の受入れについては、海外大学 A の次年度のプログラムが開始し次第、飛騨での現地プログラムの調整を図ることとする。また、国内学生については、次年度スムーズに飛騨への来訪を実現するため、継続的に本事業や飛騨シューレの取組を PR するとともに、より具体的な情報を掲載した「募集要項」を早めに準備し、学生たちの参加しやすい環境づくりをすすめる。

今年実際に往訪は叶わなかったものの、調整してきた方向性を維持し、次年度以降の実現を目指したい。

最後に、会議体に関して、これは今後も飛騨シューレの活動の報告及び参加メンバーの意見交換の場として継続できればと考えている。市・教育委員会として進める施策の方向性を共有いただくことも重要である。本事業終了後も連携体制を継続するよう関係各所との調整に努めることとする。

令和3年度スポーツ庁委託事業
スポーツスペース・ボーダレスプロジェクト
(学校体育施設の有効活用推進事業)
報告書

令和4年3月
一般社団法人飛騨シューレ

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、一般社団法人飛騨シューレが実施した令和3年度「スポーツスペース・ボーダレスプロジェクト（学校体育施設の有効活用推進事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。